



第3次茨木市子ども読書活動推進計画

令和2年(2020年)3月

茨 木 市



「本が好きなまち・茨木」をめざして

子どもにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするものであり、人生をより深く生きる力を身に付けていくために欠くことができないものです。

発達段階や特性に応じて、子どもたちが本と出会い、読書を楽しむためには、周囲の大人が子どもの読書活動の意義を理解し、成長過程のあらゆる場面で子どもが物語にふれ、気軽に本を手にとることができるような環境づくりに取り組むことが重要です。

茨木市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成 17 年に「茨木市子ども読書活動推進計画」を、平成 27 年に「第 2 次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進するため、様々な施策に取り組んでまいりました。

引き続き、子どもたちを取り巻く環境や社会情勢の変化に対応し、適切な施策の推進を図るため、このたび「第 3 次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

本計画策定に当たっては、市内の子どもの読書活動の実態を把握するため、市立保育所・幼稚園・認定こども園、小中学校においてアンケート調査を実施し、児童・生徒や保護者の皆様にご協力いただきました。また、パブリックコメントや図書館協議会においても、貴重なご意見やご提言をいただきました。

多くの皆様のご協力をいただき、ここに「第 3 次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定することができました。

本市でたくさんの本に出会った子どもたちが、大人になってからも読書を楽しみ、次の世代の子どもたちに本を読む楽しさをつないでいける「本が好きなまち・茨木」をめざして、本計画に沿って取組を進めてまいります。

令和 2 年(2020 年)3 月
茨 木 市

目次

	ページ
第1章 計画策定にあたって	1
1 計画策定の経過	1
2 国・府の動向	2
3 計画の位置づけ	4
4 計画の期間及び対象	4
第2章 第2次計画における取組と成果・課題	5
1 第2次計画の基本方針	5
2 第2次計画における取組と成果・課題	6
(1) 基本方針Ⅰ 子どもの読書機会の提供・充実と読書環境の整備・充実の取組と 成果・課題	6
①家庭・地域における取組と成果・課題	6
②保育所・幼稚園・認定こども園等における取組と成果・課題	9
③学校における取組と成果・課題	10
④市立図書館における取組と成果・課題	13
(2) 基本方針Ⅱ 学校・地域等と市立図書館との連携による推進体制の整備の取組 と成果・課題	15
①学校・地域等と市立図書館との連携における取組と成果・課題	15
②子どもの読書活動に関わる人材の育成における取組と成果・課題	16
(3) 基本方針Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発の取組と成果・ 課題	16
第3章 第3次計画の基本的な考え方	19
1 基本方針	19
Ⅰ 子どもの読書機会・環境の充実と読書活動の啓発	19
Ⅱ 関係機関の連携と人材の育成	19
2 計画の体系	20

第4章	計画の実現に向けた取組	21
1	基本方針Ⅰ 子どもの読書機会・環境の充実と読書活動の啓発	21
	(1) 家庭・地域での推進	22
	(2) 保育所(園)・幼稚園・認定こども園等での推進	23
	(3) 学校での推進	24
	(4) 市立図書館での推進	25
2	基本方針Ⅱ 関係機関の連携と人材の育成	28
	(1) 連携による取組	28
	(2) 子どもの読書に関わる人材の育成	29
3	推進体制の整備	30

【資料編】

1	子ども読書活動に関するアンケート調査結果 (平成26年度、平成29年度、令和元年度)	32
2	学校と公共図書館ネットワークプラン	67
3	茨木市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱	74
4	子どもの読書活動の推進に関する法律	76

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の経過

本市では、平成17年（2005年）3月に「茨木市子ども読書活動推進計画」を、平成27年（2015年）3月に「第2次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域¹・学校等²と図書館との連携強化を図り、子どもが読書に親しむための機会の提供や様々な読書環境の整備に取り組んでまいりました。

近年、インターネットやスマートフォンが普及し、SNS³などの情報通信手段の多様化により多くの情報が溢れ、子どもを取り巻く社会環境が急激に変化しています。また、家庭環境や生活環境の変化、価値観が多様化する中で、子どもの読書離れが指摘されています。

そのような状況の中で、今後も家庭・地域・保育所（園）・幼稚園・認定こども園⁴・学校・図書館等が連携し、子どもが発達段階に応じた読書習慣を身に付けることができるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進する必要があることから、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定し、本市としての取組を明確にするものです。

¹ 地域：市立図書館、こども健康センター、上中条青少年センター、教育センター、公民館、多世代交流センターおよびこれらの施設に関する職員・団体・ボランティア等を含む。

² 学校等：保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、障害児通所事業所を含む。

³ SNS：ソーシャルネットワークサービス。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とするコミュニティ型のサービスをいう。LINEやTwitter、Facebookなどがある。

⁴ 認定こども園：教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている。

2 国・府の動向

国は読書の重要性を考え、平成 12 年（2000 年）を「子ども読書年⁵」と定め、翌平成 13 年（2001 年）には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、国を挙げて、子どもの読書活動を推進する姿勢を打ち出しました。

そして、この法律に基づき、平成 14 年（2002 年）8 月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（「以下基本計画」）、平成 20 年（2008 年）3 月に「第二次基本計画」、平成 25 年（2013 年）5 月に「第三次基本計画」、平成 30 年（2018 年）4 月には「第四次基本計画」を策定しています。「第四次基本計画」では、読書習慣の形成に向けて発達段階ごとの効果的な取組を推進することや、子どもが読書への関心を高める取組の充実等が盛り込まれています。

また、大阪府では、国の動向を受けて平成 15 年（2003 年）1 月に「大阪府子どもの読書活動推進計画（以下「大阪府計画」）、平成 23 年（2011 年）3 月に「第 2 次大阪府計画」、平成 28 年（2016 年）3 月には「第 3 次大阪府計画」を策定しています。「第 3 次大阪府計画」では、基本方針として「発達段階や生活の場に応じて本と親しむことにより、全ての子どもが読書の楽しさと大切さを知り、自主的に読書活動を行うことができる環境整備に大阪全体で取り組む」としています。

（次ページ「国・大阪府・茨木市の動向」参照）

⁵ 子ども読書年：平成 11 年（1999 年）8 月、衆参両議院の議決により、平成 12 年（2000 年）の国際子ども図書館の開館に合わせて制定された。

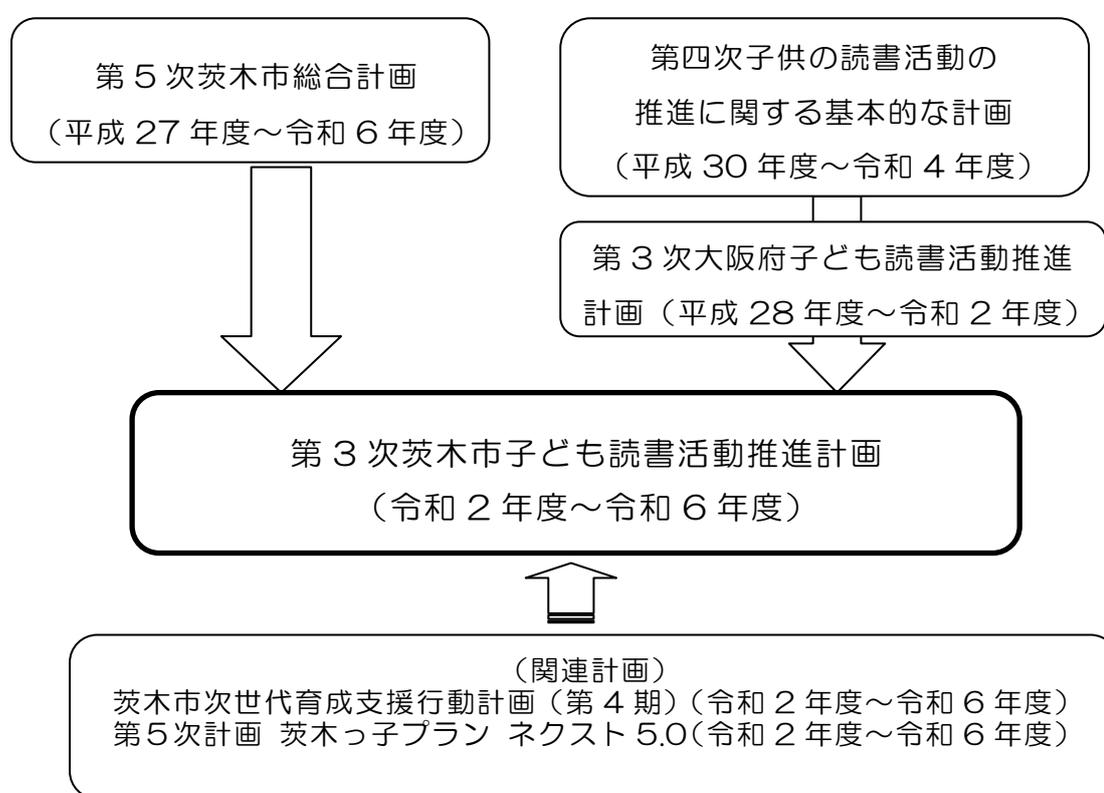
国・大阪府・茨木市の動向

年 月	国	大阪府	茨木市
平成 12 年	「子ども読書年」		
平成 13 年 12 月	「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行		
平成 14 年 8 月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定		
平成 15 年 1 月		「大阪府子どもの読書活動推進計画」策定	
平成 17 年 3 月			「茨木市子ども読書活動推進計画」策定
平成 17 年 7 月	「文字・活字文化振興法」成立		
平成 18 年 12 月	「教育基本法」改正		
平成 19 年 6 月	「学校教育法」改正		
平成 20 年 3 月	「第二次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定		
平成 22 年 4 月			「茨木市子ども読書活動推進計画事業報告書」作成
平成 23 年 3 月		「第 2 次大阪府子どもの読書活動推進計画」策定	
平成 25 年 5 月	「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定		
平成 26 年 7 月	「学校図書館法」改正		
平成 27 年 3 月			「第 2 次茨木市子ども読書活動推進計画」策定
平成 28 年 3 月		「第 3 次大阪府子どもの読書活動推進計画」策定	
平成 30 年 4 月	「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」策定		

3 計画の位置づけ

本計画は平成 27 年（2015 年）3 月に策定した「第 2 次茨木市子ども読書活動推進計画」を引き継ぎ、国の「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び大阪府の「第 3 次大阪府子どもの読書活動推進計画」の内容を踏まえています。

また、市の最上位計画である「第 5 次茨木市総合計画」の第 2 章「次代の社会を担う子どもたちを育むまち」及び第 3 章「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」に関連した施策を示すものであり、関連計画である「茨木市次世代育成支援行動計画（第 4 期）」及び「第 5 次計画 茨木っ子プラン ネクスト 5.0」との整合性を図っています。



4 計画の期間及び対象

この計画の期間は、令和 2 年度（2020 年度）から令和 6 年度（2024 年度）の 5 年間とします。

計画の対象については、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第 2 条において、「子ども」とは「おおむね 18 歳以下の者をいう」としていることから、本計画においても法の趣旨をふまえ、おおむね 18 歳以下の子どもを対象とします。また、子どもの読書活動の推進に関わる周囲の大人（保護者、教育・福祉・保健の行政関係者、地域の団体・ボランティアなど）も対象に含みます。

第2章 第2次計画における取組と成果・課題

1 第2次計画の基本方針

「第2次茨木市子ども読書活動推進計画」（平成27年（2015年）3月）では、次の3つの基本方針に基づき取組を行いました。

I 子どもの読書機会の提供・充実と読書環境の整備・充実

乳幼児期からの読書の環境づくりに努めます。

読書のきっかけとなる場や本に親しむ機会を提供することで、すべての子どもが発達段階に応じて読書の楽しさを見出し、自主的に読書を行う習慣が身につけられるよう、子どもの読書環境の整備と充実を図ります。

II 学校・地域等と市立図書館との連携による推進体制の整備

学校・地域等の関係機関がそれぞれの役割を果たすとともに、市立図書館と連携・協力しながら社会全体が一体となって、子どもの自主的な読書活動を推進するための体制を整備します。

III 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

保護者をはじめとする、子どもにとって身近な大人の読書活動への理解と関心を高めるため、読書活動の意義や重要性について、広く普及啓発活動を実施します。

2 第2次計画における取組と成果・課題

第2次計画での取組とその成果・課題について、主なものを基本方針ごとにまとめました。

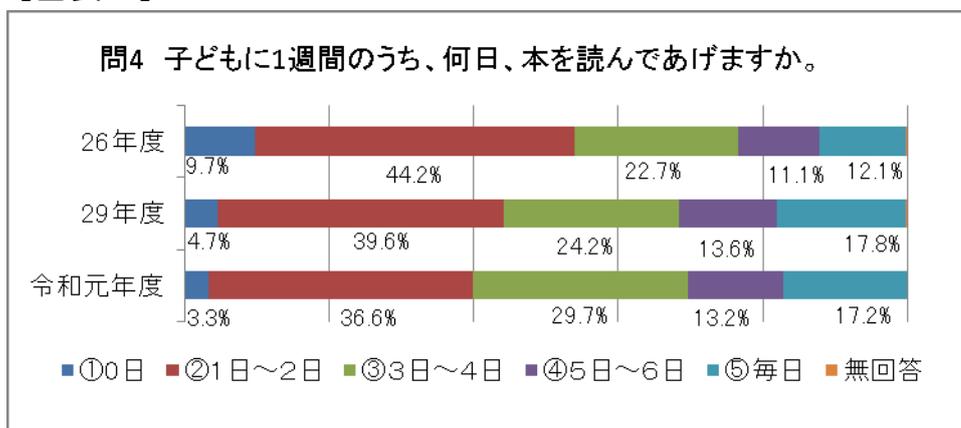
(1) 基本方針Ⅰ 子どもの読書機会の提供・充実と読書環境の整備・充実の取組と成果・課題

① 家庭・地域における取組と成果・課題

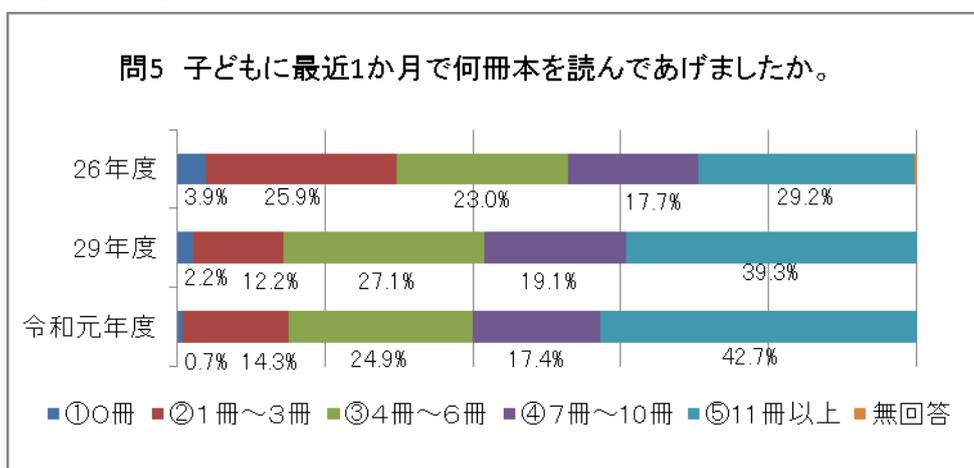
ア) 家庭においては、令和元年度茨木市子ども読書活動に関するアンケート調査（以下「読書アンケート」）の結果で、4歳児の保護者に「子どもに1週間のうち、何日、本を読んであげますか」の問いで、「0日」の回答が5年間で、9.7%から3.3%に減少しています。【図表1】

また、「子どもに最近1か月で何冊本を読んであげましたか」の問いで、「0冊」の回答が5年間で3.9%から0.7%に減少しており、本を読んであげている家庭が増えました。【図表2】

【図表1】



【図表2】



イ) こども健康センターでは、4か月児健康診査時のブックスタート事業⁶で絵本を手渡すとともに、啓発や絵本の読み聞かせを行い、保護者に乳幼児期から絵本を介して親子がふれあうことの大切さについて伝えました。また、保健師の訪問指導や地区活動等を通じて、年齢に応じた読み聞かせ方法や絵本の使い方等を伝え、読書活動の啓発に努めました。



ブックスタートの様子

ウ) 各公民館の実情にあわせて、中央図書館のおはなし会ボランティア⁷や市内大学の学生による読み聞かせを行いました。市内大学との連携による読み聞かせは、始まったばかりで開催館が少ないことから、開催館の増加につながるよう工夫が必要です。また、中央図書館のリサイクル図書⁸（児童書約 400 冊）を児童室のある4公民館に設置するなど、図書コーナーの充実を図りました。

エ) 上中条青少年センターでは、子どもセミナーの開催に合わせて、紙芝居の読み聞かせを行いました。引き続き、セミナーの開催に合わせて子どもが読書に親しむ機会の提供に努めます。また、子ども向け月刊誌の定期購入をはじめ、図書館から推薦された図書を購入するなど順次図書の整備を進めました。

オ) 学童保育室⁹では、学童保育指導員向けに「読み聞かせ」の研修を実施しま

⁶ ブックスタート事業：こども健康センターで、4か月児健康診査を受診した乳児と保護者を対象に絵本を介して楽しく穏やかなひと時を持ってもらうことを目的に、4種類の絵本の中から1冊を手渡す。

⁷ おはなし会ボランティア：市立図書館のおはなし会で絵本の読み聞かせやおはなしの語りをするボランティア。

⁸ リサイクル図書：市立図書館の蔵書のうち、利用回数が少なくなり、不要となったものを市民や関係施設等に譲与するもの。

⁹ 学童保育室：保護者が就労等により、放課後家庭に不在の小学校1～3年生の児童のうち、希望者を対象として学校の敷地内に専用教室を設けて遊び・生活の場を提供し、児童の健全育成を図っている。

した。あわせて、男女共生センターローズWAMの「WAMキッズおはなし会」の派遣を依頼し、読書機会の充実につなげました。市立図書館が作成したブックリスト「おもしろい本みつけた」¹⁰を図書の購入等の参考にするとともに、市立図書館の団体貸出¹¹を利用し、学童保育室の本の充実を図りました。また、学校外保育で図書館や移動図書館¹²を利用しました。

力) 子ども連れが多い市役所南館3階窓口の子どもの本のコーナーや男女共生センターローズWAM、生涯学習センターきらめき、教育センターでは、絵本コーナーの環境づくりに努めました。

- 市役所窓口の子どもの本コーナー

当初は来庁者の関心も薄かったようですが、子どもが本を手に取り楽しそうに読んでいる姿が日常的に見られるようになりました。

- 男女共生センターローズ WAM

絵本コーナーを1階図書コーナーのエントランス付近に移動し、より目にとまりやすく手に取りやすい高さにするなどの環境づくりに努めました。

- 生涯学習センターきらめき

1階情報コーナーの自由に学習等ができるスペースに「乳幼児及び小学生向け書籍コーナー」を設置したことにより、利用者に読書をする機会を提供しました。

- 教育センター

待合室に図書コーナーを設置し、子ども達が本に親しむ機会を提供しました。



市役所子どもの本のコーナー



教育センター待合室

¹⁰ ブックリスト「おもしろい本みつけた」：市立図書館が作成・配布する、乳幼児向けから中高生向けまでの年齢に応じたおすすめの本を紹介するブックリスト。4種類作成、年2回発行。

¹¹ 団体貸出：市立図書館に登録した学校等や、公共的団体に対する貸出のこと。

¹² 移動図書館：自動車に図書や紙芝居を積み、図書館から離れた地域を中心に、市内14か所を巡回している。名前は「ともしび号」。



ローズWAM子どもの本のコーナー



生涯学習センターきらめき本のコーナー

キ) 川端康成文学館、富士正晴記念館では、郷土の作家を子どもたちに知ってもらい親しみをもってもらうため、子ども向けの事業を開催しました。

・川端康成文学館

夏休み企画のパネル展示、アニメ上映、クイズ、ギャラリートーク¹³など、川端康成と作品について、小中学生を対象としたイベントを開催し、川端康成について知ってもらう機会を提供しました。

・富士正晴記念館

小中学生を対象とした企画展を中央図書館ロビーで開催し、富士正晴に関するクイズや富士正晴が描いた絵を元にぬりえを行い、富士正晴について知ってもらう機会を提供しました。



川端康成文学館



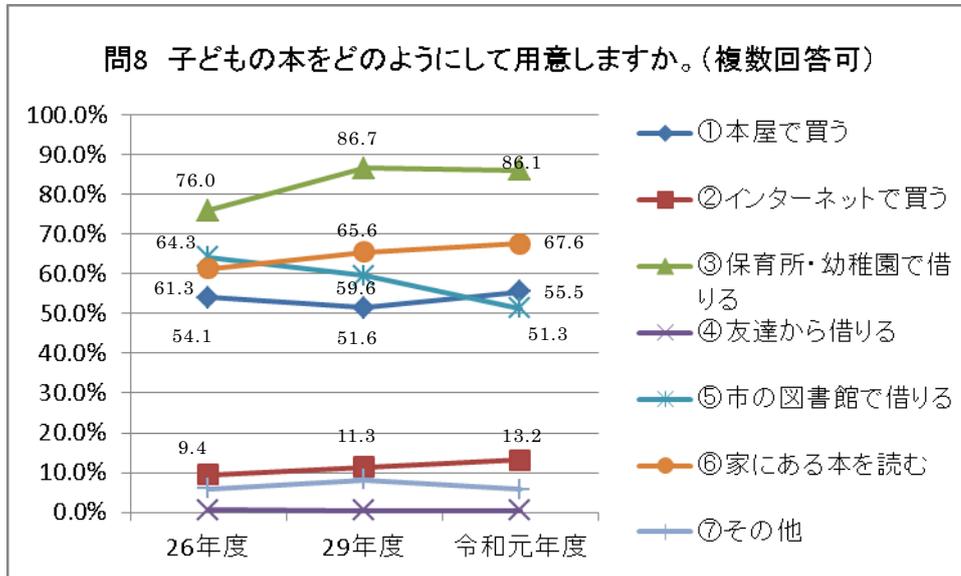
富士正晴記念館

② 保育所・幼稚園・認定こども園等における取組と成果・課題

ア) 読書アンケートの結果では、4歳児の保護者に「子どもの本をどのようにして用意しますか」の問いで「保育所・幼稚園で借りる」という回答が、最も多く、また5年間で76.0%から86.1%に増加し、保育所・幼稚園等で借りている子どもが増えています。

¹³ ギャラリートーク：展示室で作品を鑑賞しながら見どころを話すイベント。

【図表 3】



- イ) 年齢に応じた絵本等の読み聞かせを毎日行い、おはなしや絵本に興味や関心を持たせることができました。また家庭において親子で絵本に親しめるよう、絵本の貸し出しや絵本だより¹⁴を発行し、読書機会の充実に努めました。
- ウ) 子どもの興味や関心のある絵本、年齢や季節に応じた絵本等を精選し、子どもの目につきやすい所や手に取って見やすい所に配置する等、読書に親しむ環境づくりに努めました。
- エ) 配慮（支援）を要する子どもが興味を持つ絵本を選び、みんなと一緒に読み聞かせを楽しめる機会や個別の読み聞かせの時間をつくり、読書機会の提供を行いました。
- オ) 障害児通所施設等では、子どもたちの発達課題とそれぞれの興味や関心にあわせた絵本等を選択し、パーティションで区切るなど子どもが集中しやすい環境を整えながら、読み聞かせを行いました。

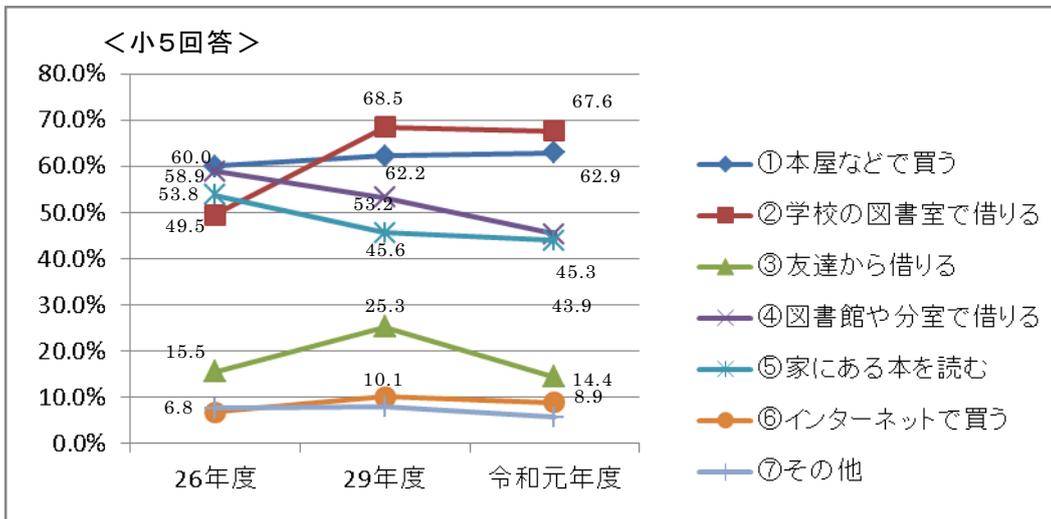
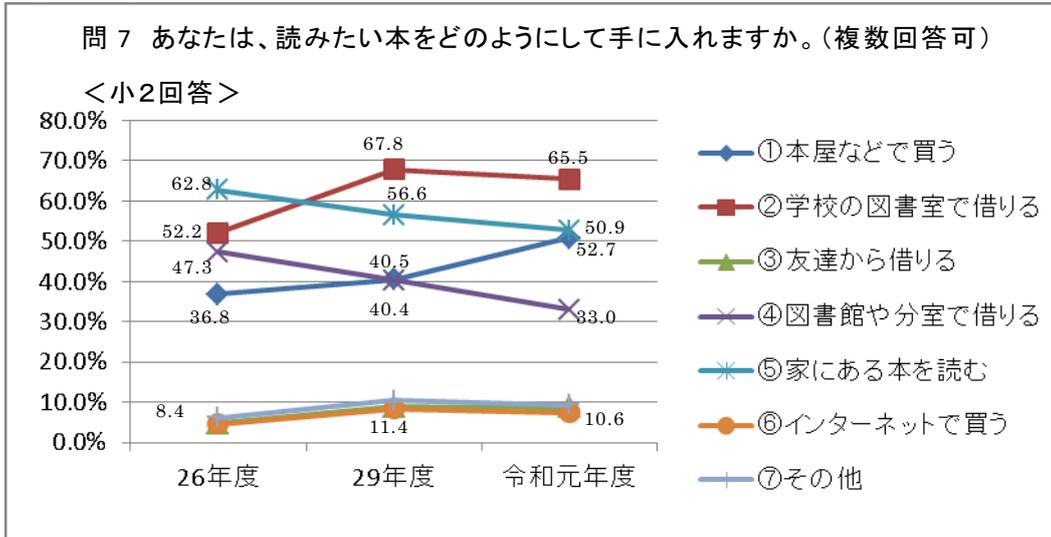
③ 学校における取組と成果・課題

- ア) 読書アンケートの結果で、「読みたい本をどのようにして手に入れますか」という問いに対して、小学生 2 年生・5 年生では、「学校の図書室」¹⁵で借りるが増えており、平成 29 年度、令和元年度の調査では一番多くなっています。

¹⁴ 絵本だより：保育所や幼稚園、認定こども園で作成している保護者向けのおたより。

¹⁵ 「学校の図書室」：正式な名称は「学校図書館」。アンケート調査の質問文では、児童・生徒になじみのある表現で記載。

【図表 4】



イ) 学校図書館の貸出冊数は、平成 27 年度 354,493 冊から、平成 30 年度 520,119 冊と大きく増加しました。

ウ)本市では全小中学校で一斉読書¹⁶に取り組んでおり、小学校では週 1～2 回、中学校では毎日、始業前に 10～15 分程度、全員が読書し、全校で一斉読書の定着を図ることができました。

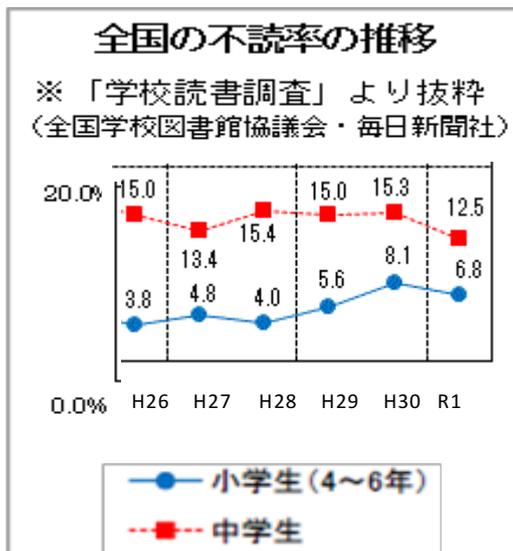
エ)読書アンケートの結果で、茨木市の小中学生の不読率¹⁷が平成 29 年度以降、全国平均を下回っており、小中学生の読書の習慣化が定着しています。

【図表5】【図表6】(※全国の不読率は年間ではなく5月1か月間のデータです。)

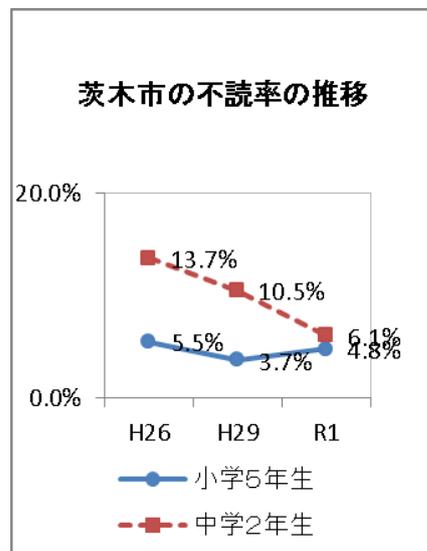
¹⁶ 一斉読書：児童・生徒全員が席について、それぞれが一斉に読書をする。全員が一斉に行うことにより、本を読むことに抵抗があり、自分からは本を手にとらない子どもも読書の機会を持つことができ、本好きになるきっかけとなっている。

¹⁷ 不読率：1ヶ月に1冊も本を読まなかった人の割合。

【図表5】



【図表6】



オ) 子どもからのリクエスト等も考慮しながら、蔵書の充実を図るとともに、物流システム¹⁸で他校や公共図書館の図書を活用し、多くの本を子どもたちに提供することができました。

カ) 図書館の利用促進と調べ学習の普及を目的とした「図書館を使った調べる学習コンクール¹⁹」の地域コンクールを茨木市で開催し、児童・生徒が図書館をより効果的に活用できるよう取り組みました。読書としての図書館活用に加え、調べ学習に取り組みやすくなるように蔵書の収集・活用をさらに促進する必要があります。

キ) 障害のある子どもへの読書活動機会の提供について、司書教諭等連絡会等で、情報交換の場を作りました。

ク) スクールサポーター²⁰と学校図書館ボランティア²¹に同じ内容の研修を行い、連携ができるように進めました。司書教諭²²と図書館担当教員を中心に、スクールサポーター、学校図書館ボランティア等が連携し、市立図書館司書によ

¹⁸ 物流システム：市内全小・中学校を3ブロックに分け、学校間の図書の貸し借りや中央図書館の蔵書の貸出・返却を行うもの。

¹⁹ 図書館を使った調べる学習コンクール：図書館利用促進と調べる学習の普及を目的に、公益財団法人図書館振興財団が実施するコンクール。

²⁰ スクールサポーター：司書教諭、学校図書館ボランティアと連携して学校図書館の環境整備（本棚の整理・掲示・展示）や授業で使用する図書の準備などを行う。

²¹ 学校図書館ボランティア：学校図書館で図書の修理や展示、読み聞かせなどを行うボランティアのこと。

²² 司書教諭：学校図書館法により、12 学級以上の規模の学校で置くこととされており、本市では全小・中学校で発令されている。学校図書館の専門的な職務を行うため、教諭のうち司書教諭資格を有する者の中から発令される。

る研修や、学校図書館の訪問・アドバイスを受けることで学校図書館の運営体制の充実を図りました。

今後も学校図書館に関わる大人が連携し、継続して小・中学校における読書の習慣化への取組や学校図書館の利用促進をさらに進める必要があります。



一斉読書



学校図書館

④ 市立図書館における取組と成果・課題

ア) 子どもの本の充実のため、新しい本や話題になった本の他、調べ学習用の本の購入を行い、また長年読み継がれている本や利用の多い本の再購入を行うなど、計画的に図書収集を行いました。

児童書から一般書へと読書の対象が移行する時期に当たる中高生に対し、その年代や興味に応じた図書を幅広く収集・提供し、充実を図る必要があります。

イ) 「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催に合わせて、各図書館で調べ学習の啓発に努めました。読書アンケートの結果では、「知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか」の問いで「図書館で調べる」という回答が21.4%から13.1%に減少しており、児童コーナーで相談しやすい窓口をつくるなど、子どもが図書館で調べものがしやすくなる工夫が必要です。

ウ) 読書アンケートの結果で、小学2年生・5年生・中学2年生に「市の図書館に行きますか」の問いで、「行かない」の回答が5年間で20.7%から24.8%に増えており、図書館に来てもらうような工夫が必要です。

エ) ブックリスト「おもしろい本みつけた」の作成・配付を行いました。新たに中高生版を作成し、対象年齢（0歳～高校生）ごと4種類を市内の児童・生徒に配付、市内各関係施設に設置し、図書館に来館されない子どもや保護者にも情報提供しました。あわせて各図書館に特集コーナーを設置し、図書館ホームページに掲載しました。

オ) 図書館ホームページに「子ども向け調べものリンク集」を開設し、調べも

のに役立つテーマ別のブックリストなどを公開することで、多くの本の情報を提供しました。

カ) 各図書館などで、読書推進や図書館の利用促進につながる行事や講座などの事業を開催しました。

- 0～3歳向けのおはなし会を開催し、乳幼児から読書に親しむ機会の提供に努めました。また、市内の学校・園や商業施設、子育てイベント等でおはなし会を開催し、図書館に来館されない市民に対しても読書に親しむ機会の提供に努めました。
- 人形劇やおもちゃづくりのほか、子ども向けの演劇や子どもの本交換会など、図書館への来館のきっかけとなるよう、各図書館で様々な行事を開催しました。
- 読書推進の講座について「親子で参加できる読み聞かせ講座」、「読書感想文の書き方講座」、「大人を対象にした子どもの本の読書講座」などを各図書館で開催し、親子で読書について考える機会を増やし、図書館の利用を啓発することができました。



おはなし会



行事の様子

参加の少ない行事や講座については、開催時期、開催場所、対象や内容を精査し、周知方法などを検証する必要があります。

キ) ホームページに行事のお知らせや開催時の様子の紹介、本の紹介などを掲載し、図書館利用に関する情報の提供に努めました。また、市内の学校・園や子育て関連施設に定期的にチラシを配布し、行事などの広報の充実に努めました。より多くの人に周知するには、ホームページの充実やSNSの活用が課題です。

ク) 日本語を母語としない子ども向けに、英語や中国語に翻訳された日本の絵本を購入し、リストをホームページに公開しました。今後、外国語で書かれた絵本の全館での収集体制や外国語のおはなし会の開催等について、検討が必要です。

ケ) 障害のある子ども向けに、点字絵本やさわる絵本、デイジー図書²³などの収集・提供を行うとともに、「LL版利用案内²⁴」を作成・設置して、利用しやすい環境づくりに努めました。より多くの子どもたちに利用してもらえよう、活字による読書が困難な子ども向けの資料の収集や、利用についての周知が必要です。

(2) 基本方針Ⅱ 学校・地域等と市立図書館との連携による推進体制の整備の取組と成果・課題

① 学校・地域等と市立図書館との連携における取組と成果・課題

ア) 学校と市立図書館が、協力して子ども読書活動を推進するための取組を具体的にまとめた「学校と公共図書館ねっとワークプラン」を作成し、連携事業を推進しました。

- ・市立図書館司書が学校図書館を訪問して意見交換や相談に応じるほか、スクールサポーターや司書教諭等の連絡会に出席し、意見交換や交流を行いました。
- ・市立図書館の司書が、公共図書館の情報や学校図書館運営に役立つ情報を掲載した「ねっとわーくだより」を年2回発行しました。

イ) 市立図書館で、保育所(園)・幼稚園・認定こども園等や小学校の生徒・児童の見学を受け入れ、館内見学・貸出などを行いました。また中学生の職場体験を受け入れ、職場体験をした生徒におすすめの本の紹介文を書いてもらい、図書館ホームページに「中学生のおすすめ本」として掲載しました。

ウ) 学校の調べ学習等に使用する本を市立図書館の団体貸出や、物流システムでの配送を利用した学校間の貸借により児童・生徒に提供しました。

エ) 団体貸出を中央図書館だけでなく分館でも行うことで、中央図書館への来館が難しかった保育所(園)・幼稚園・認定こども園等も利用しやすくなりました。今後、私立の保育園・幼稚園・認定こども園等に対して、団体貸出の活用方法など個別の周知が必要です。

オ) 市立図書館司書が地域に出向き、年齢に応じたおすすめの本や、読み聞か

²³ デイジー図書：デイジー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略で、「アクセシブルな情報システム」と訳されるデジタル録音図書の国際標準規格。視覚障害等により、普通の印刷物を読むことが困難な方々のために、カセットテープに代わるものとして開発された。

²⁴ LL版利用案内：単語や文章はできるだけやさしく表現し、漢字にはルビを振り、絵文字(ピクトグラム)なども使った誰にでもわかりやすい図書館の利用案内。

せについて、生涯学習出前講座を実施しました。また、市内のつどいの広場²⁵からのお知らせなどを、中央図書館児童室等の情報提供のコーナーに掲示し、市立図書館からは、おはなし会のちらしやブックリスト「おもしろい本みつけた」を送付するなど、相互で情報提供を行いました。

カ) 子どもの頃の読書の大切さを伝えるため、子どもの読書活動を推進するための情報を、関係機関や地域団体・ボランティア等に対し、市立図書館からどのような形で提供していくのか、検討が必要です。

② 子どもの読書活動に関わる人材の育成における取組と成果・課題

ア) 保育士・幼稚園教諭対象に実施した研修の場で、教職員間で意見交流や情報交換を行いました。また、講師による読み聞かせの研修を実施し、技術の向上につながりました。

イ) 司書教諭、図書館担当教員、スクールサポーター、学校図書館ボランティアを対象に、定期的に連絡会や研修会を実施しました。

ウ) 大阪府立図書館での研修や、児童サービス担当者連絡会に市立図書館の職員が参加し、スキルアップや他市の図書館職員との情報交換に努めました。おはなし会ボランティアを対象にした入門講習会や研修会を実施するとともに、市外の図書館等で開催される講座についても情報提供しました。

エ) 子どもの読書に関わる人材育成のため、継続して研修を行い、知識や技能の向上を図る必要があります。

(3) 基本方針Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発の取組と成果・課題

ア) 保育所・幼稚園・認定こども園等では、読み聞かせの大切さや年齢に応じた絵本等を伝え、親子で楽しむ機会を啓発できるよう絵本だよりを作成し、保護者に配布しました。また、おはなし会ボランティア等による読み聞かせを実施しました。

イ) 公民館では、子どもの読書に関する講演会や講座を開催する館と実施回数が増加しました。定期的な講座の開催、講習会未開催の公民館への働きかけが必要です。

²⁵ つどいの広場：乳幼児をもつ子育て中の保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、子育てや育児について語り合うことができる場所。

- ウ) 男女共生センターローズWAMでは、ブックリストを作成して、行事・講座等の参加者に配付し、所蔵図書の紹介をしました。
- エ) 生涯学習センターきらめきでは、親子で絵本を作る教室を開催し想像力を豊かにする取組を行いました。
- オ) 川端康成文学館、富士正晴記念館、宮本輝ミュージアムが連携し、各館のチラシを相互に設置するなど啓発を行いました。また川端康成文学館と富士正晴記念館が北大阪ミュージアムメッセ²⁶に参加し、館の周知に努めました。
- また、市内でのイベントにおいて、文学クイズで本市にゆかりのある作家のPRを行いました。今後も図書館の資料などを活用した作品の紹介・普及が必要です。
- カ) 市立図書館では、ブックリスト「おもしろい本みつけた」を作成・配布し、図書館ホームページに掲載しました。
- キ) 「子ども読書の日²⁷」及び「こどもの読書週間²⁸」にあわせて、各施設にポスターを掲示し、市立図書館ではおはなし会や行事を開催しました。



ブックリスト
「おもしろい本みつけた」

第2次計画では、3つの基本方針に基づき、図書館をはじめ、地域、保育所・幼稚園・認定こども園、学校などの施設、また市内で行われるイベントなどで、読み聞かせやおはなし会、講座など、子どもや保護者が参加できる読書の推進につながる事業を実施してきました。また、それぞれの施設で、絵本や本のコーナーの環境整備・充

²⁶ 北大阪ミュージアムメッセ：8市3町（吹田市、箕面市、池田市、豊中市、茨木市、高槻市、摂津市、川西市、能勢町、豊能町、島本町）の博物館・美術館などが協力して広く美術作品や学術資料に触れる機会を増やし、文化環境を高めていくためのネットワークが行うイベント。

²⁷ 子ども読書の日：「子どもの読書活動の推進に関する法律」により「4月23日」と定められている。

²⁸ こどもの読書週間：子ども読書の日から5月12日の約3週間。子どもに読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけようとする機会として設けられた。

実に努めてきました。

それらの取組により、子どもたちと保護者が、日常生活のさまざまな場面で、おはなしや本に親しむことができ、その結果、幼少期の家庭での本の読み聞かせの習慣化や、本を読むことが好きという小学生・中学生の割合が増え、不読率の低下につながりました。

しかし、全国的に見て、子どもの読書離れは拡大してきており、特に中学生までの読書習慣の形成の不十分さ、高校生の読書への関心の低下などが指摘されており、発達段階に応じた取組の推進が必要とされています。

そのため、本市においても、今後も継続して、図書館、地域、保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校などの関係機関が連携し、子どもの読書活動を推進していくとともに、その活動を支え、推進していく人材を育成する取り組みを行う必要があります。

第3章 第3次計画の基本的な考え方

子どもたちは読書を通じて、読解力や創造力、思考力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解できるようになります。また、自然科学や社会科学の本、新聞、図鑑などを読むことで、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、探求心を深めていきます。

近年、グローバル化や技術革新により、社会が大きく、急速に変化する中で、社会全体が予測困難な時代になっています。その中で、子どもたちは自ら変化に向き合い、他者と協力して課題を解決することや、様々な情報を比較・検討・評価して消化し、新たな価値へつなげていくことなどを求められています。スマートフォン利用率の増加やSNSの普及など、あらゆる分野の多様な情報に容易に触れることができるようになり、その情報の見極めがより一層重要になっています。読書は、精査した情報を基に自分の考えを形成し、表現するなどの「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むことに資するという点からも、子どもたちにとって今後さらに重要となってくるでしょう。

このような読書活動および読書習慣の形成には、乳幼児期からの切れ目のないアプローチが欠かせません。一人ひとりの発達や読書経験に留意し、家庭・地域・学校等さまざまな場所において、読書活動推進の取組を進めることが必要です。

本計画では、前の章で挙げた第2次計画期間における課題や、アンケート結果を踏まえて、下記の2つの基本方針に沿って取組を進めます。

1 基本方針

I 子どもの読書機会・環境の充実と読書活動の啓発

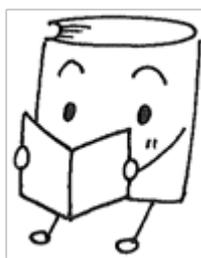
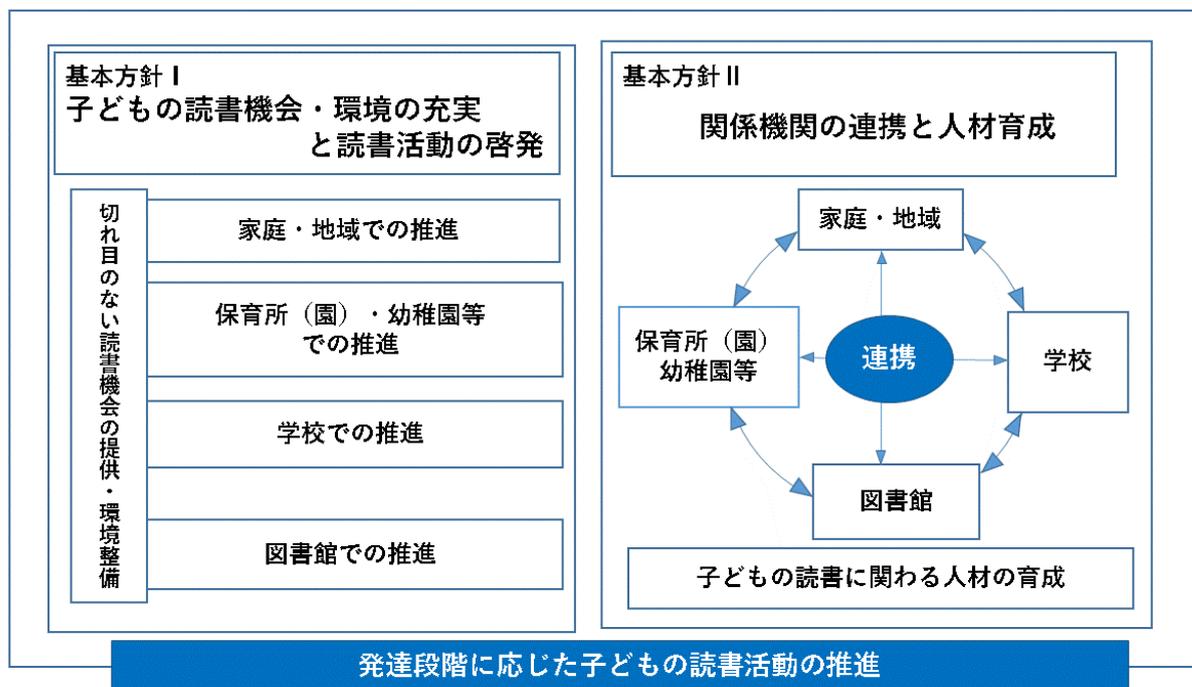
子どもたちが日常生活の中で読書習慣を身に付け、興味や特性に応じた読書活動を通して豊かな学びのある人生を歩めるよう、家庭・地域・学校等さまざまな場所において、子どもと本が会う機会や環境の整備を行い、子どもの周囲にいる大人たちに、子どもの読書活動の重要性について、引き続き普及・啓発していきます。

II 関係機関の連携と人材の育成

子どもが多くの時間を過ごす保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校等と、子どもに関わる地域の施設等、子どもの読書活動に関わる関係機関が相互

に連携・協力し、より効果的な推進体制で取り組みます。また、継続して取組を進めるため、子ども読書に関わる人材の育成や知識・技能の向上を図ります。

2 計画の体系



【としょかんたろう】

第4章 計画の実現に向けた取組

計画の実現に向けた取組を以下に示します。

1 基本方針Ⅰ 子どもの読書機会・環境の充実と読書活動の啓発

子どもが読書について興味・関心を持ち、生涯にわたって読書を楽しむ習慣を身に付けるには、乳幼児期から、小学生、中学生、高校生へと、発達段階に応じた読書活動を行うことが重要であり、それぞれの段階において子どもが容易に本に親しめる環境を整備していくことが大切です。

乳幼児期には、身近な大人に読み聞かせをしてもらうことで、絵本を通して楽しい時間を体験し、本に親しみを感じるようになります。

小学生の時期には、一人で本を読めるようになるとともに、読み聞かせにより、より深く物語の世界を体験することで、読書の楽しさを知り、本を選んで読む力をつけていきます。また、わからないことがある時、図鑑等の本を使って調べる中で、自ら調べ、学ぶ力等を身に付けていきます。

茨木市では中学校2年生の不読率が下がっており、本を読む習慣がついている生徒が増えてきていますが、中学・高校生になると、行動範囲や交友関係が広がり、勉強や部活動などで忙しくなり、またスマートフォンでのゲームやSNSなどに時間を費やし、読書から遠ざかってしまう時期でもあります。しかし、思春期にあたるこの時期は、さまざまな悩みや関心を持つ時期でもあるため、本を読むことで、解決の糸口をみつけるなど新しい知識や読書の楽しさを知ることは、とても大切です。

たとえ一時的に読書から遠ざかっても、幼少期に読書に親しみ、読書習慣を身に付けた子どもたちは、何かの機会に読書活動を再開することができると思います。

乳幼児期から中学・高校生に至るまで、子どもたちが本を身近に感じ、読書に親しむ習慣を身に付けられるよう、子どもの読書機会の提供、読書環境の整備・充実に努めます。

子どもの読書活動を推進するには、保護者をはじめとする周囲の大人にも子どもの読書の大切さを伝え、理解を深めることも重要です。

さまざまな機会・方法で、子どもの読書活動に関する普及・啓発活動を実施します。

(1) 家庭・地域での推進

子どもの読書活動は、日常生活の中で身近な大人から影響を受けて習慣化していきます。子どもが読書に親しむようになるには、子どもの成長に読書が大切な役割を果たすことの理解を、保護者に深めてもらうだけでなく、家庭で本に触れる機会をもつことが重要です。

子どもたちが日々過ごす家庭や、保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校のほかに、子どもの読書と関わる場として地域があります。

川端康成文学館や公民館、上中条青少年センター等が実施する事業の中で、子どもたちに読書の楽しさを知る機会を提供します。

ア) ブックスタート事業（保健医療課、中央図書館）

こども健康センターで実施している4か月児健康診査において、ブックスタートを実施し、保護者に乳幼児期からの絵本を介した親子のふれあいの大切さについて伝えます。

あわせて、絵本の紹介や読み聞かせ、市立図書館の利用案内やリーフレットの配布、行事の案内等を行い、保護者への啓発を行います。

また、保健師の訪問指導や地区活動等を通じて、啓発に努めます。

イ) 読み聞かせ会・講演会・講座の開催（人権・男女共生課、学童保育課、文化振興課、社会教育振興課）

各施設で、読書のきっかけづくりとなる行事を行います。

・各公民館では、中央図書館のおはなし会ボランティアや市内大学の学生によるおはなしや読み聞かせに取り組む館を増やします。

・上中条青少年センターでは、読み聞かせや絵本作りの講座を開催し、周知に努めます。

・男女共生センターローズ WAM や学童保育室、生涯学習センターきらめきでは、絵本の読み聞かせを実施します。

ウ) 子どもの本のコーナーの充実（男女共生センターローズWAM、多世代交流センター、学童保育室、公民館、上中条青少年センター、教育センター、生涯学習センターきらめき、いのち・愛・ゆめセンター）

各施設では、図書の購入や市立図書館からの団体貸出やリサイクル図書の活用により、子どもの本のコーナーの充実を図るとともに、利用しやすい環境整備に努めます。

- ・男女共生センターローズ WAM では、絵本など蔵書を充実させるとともに、コーナーの周知・PR に努めます。
- ・市役所窓口（南館3階）の子どもの本コーナーでは、子どもの目線に合わせた本の配置を行い、自然と本に触れ合い、親しむ場となるよう、レイアウトを工夫します。
- ・生涯学習センターきらめきでは、市立図書館からの団体貸出の利用で本を入れ替え、本のコーナーを充実させます。

エ) 本市にゆかりのある作家と作品の紹介・普及（文化振興課・中央図書館）

- ・川端康成文学館では、小・中学生、高校生向け文学講座の開催を検討するなど、子どもたちの来館を働きかけ、川端康成及び作品への興味を促します。
- ・富士正晴記念館では、子どもたちにリーフレットを配付するなど、子どもたちが親しみをもてるよう、富士正晴及び作品の紹介・普及に努めます。

（2）保育所（園）・幼稚園・認定こども園等での推進

すべての子どもが読書に親しむためには、幼少期の子どもたちが多くの時間を過ごす保育所（園）・幼稚園・認定こども園等における取組が重要な役割を果たします。

子どもたちがおはなしや物語に親しみ、読書の習慣につながるよう、さまざまな取組を行います。

ア) 読書の習慣化への取組（保育幼稚園総務課）

絵本コーナーがすぐに目にとまり、落ち着いて本を読める場所となるよう環境を整えます。また、子どもの興味や季節、年齢に応じた絵本の読み聞かせを実施します。

絵本だよりの内容を読みやすく、関心が広がるよう工夫し、保護者への啓発に努めます。さらに、地域のかたへ、園庭開放²⁹のときに行う絵本の読み聞かせのお知らせなどを発信します。

市立図書館や地域のボランティアと協力しながら、保護者も一緒に楽し

²⁹園庭開放：幼稚園において、未就園の幼児を対象に、子どもや保護者の交流の場として、また子育て支援として、園舎や園庭を開放しているもの。

めるよう考慮した、読み聞かせ会や保護者対象の講習会などに取り組みます。

イ) 子どもの本の選定・収集の充実（保育幼稚園総務課）

子どもの興味関心のある絵本、年齢や季節に応じた絵本を計画的に購入し、充実を図ります。

ウ) 配慮（支援）を要する子どもへの読書環境の整備・読書機会の提供

（子育て支援課、保育幼稚園総務課）

保育所（園）・幼稚園・認定こども園等では、年齢に合わせた絵本だけでなく、配慮（支援）を要する子どもに合わせた絵本を選び、全体での読み聞かせ時に、みんなと一緒に楽しめる機会を設けます。また、個別の読み聞かせの時間の確保など、興味のある絵本を1対1で楽しめる機会を設けるなど読書機会の提供に配慮します。

障害児通所施設では、子どもたちが絵本等に興味をもてるよう、引き続き集中しやすい環境を整えます。

（3）学校での推進（学校教育推進課）

日ごろから学校で子どもたちがさまざまな形で本に触れる機会を設けることが、読書活動の習慣化につながります。また、学校図書館は、子どもの読書活動を支える重要な拠点です。学校図書館には、子どもの自発的・主体的な学習活動を支援する機能と豊かな心を育む自由な読書活動の場としての機能があり、子どもたちがそれらを活用し、読書意欲を刺激されるような工夫に努めます。

ア) 小・中学校における読書の習慣化への取組

一斉読書や読み聞かせの時間をもつことで、読書の習慣化に取り組みます。読書についての記事を掲載した学校だよりや図書館だよりを作成・配付し、読書の機会を増やします。

また、図書館を使った調べる学習コンクールを開催し、図書館の利用の機会を増やします。

イ) 子どもの本の選定・収集の充実

子どもたちが来なくなる学校図書館づくりのため、調べ学習や授業関連の本を収集するとともに、児童・生徒のリクエストを考慮しながら本の選定・収集の充実に努めます。

ウ) 障害のある子どもへの読書機会の提供

司書教諭等連絡会などを活用し、障害のある子どもたちの読書状況について情報交換を行い、デイジー図書の利用等について情報提供を行います。

エ) 学校図書館運営体制の充実

司書教諭、図書館担当教員、スクールサポーター、学校図書館ボランティアが連携し、日ごろからさまざまな形で本にふれる機会を設け、学校図書館を活用した取り組みの充実を図ります。また、各教科等の授業で学校図書館の活用を進めます。



学校図書館

(4) 市立図書館での推進 (中央図書館)

市立図書館は中央館及び4分館と、公民館やコミュニティセンター内に設置されている図書室が8分室あります。また、図書館から離れた地域については、移動図書館が市内14か所に巡回しており、市内全域で図書館を利用できる環境整備に努めています。

しかし、市立図書館の利用は減少傾向にあります。これは、子どもの身近にある学校図書館の充実、地域の施設などでのおはなし会や本のコーナーの充実などが図られたこともありますが、読書アンケートでは、市立図書館に行かない理由として「時間がない」「図書館が遠い」「子どもが騒いでしまうから」等の意見があります。

親しみやすい身近な図書館をめざして、利用促進のためのPRを活発に行うとともに、関係機関と連携し、たくさん子どもたちに市立図書館に来館してもらえるよう工夫をします。

ア) 子どもの本の選定・収集の充実

年齢に応じた本など幅広く子どもの本を収集します。また児童書と一般書の区別にとらわれず、中高生向けの図書の充実に努めるとともに、電子媒体

の活用についても検証します。

イ) 移動図書館による巡回

市立図書館や分室から離れた地域を巡回するほか、イベントや子どもの集まる場所に移動図書館で巡回し、読書の機会を提供します。



移動図書館

ウ) ブックリスト「おもしろい本みつけた」の作成・配付

0歳～高校生までの年齢に応じたおすすめの本を紹介するブックリスト「おもしろい本みつけた」を継続して作成し、配付します。また、配付・設置場所をより広く追加するとともに、中高生向けの本の情報提供に努めます。

エ) 子どもの読書に関する相談

問い合わせの多いテーマなどの本のリストを作成します。作成したリストは利用者の手に取りやすい場所に配置するなど、活用を図ります。

多様なテーマの特集を行い、子どもの読書に関する相談・レファレンス³⁰を充実します。

また、図書館ホームページの「子ども向け調べものリンク集」についても、随時見直しを行うとともに、活用についての周知に努めます。

オ) 「おはなし会」の充実

図書館や保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校、市内のイベント等でおはなし会を開催します。また、随時、開催場所、内容、派遣先や派遣回数を見直しを行い、より参加しやすい条件整備に努めます。

カ) 講座・子ども向け行事等の開催

図書館の利用促進を図るため、市立図書館を利用したことのない子どもの利用のきっかけとなるような取組を各図書館で行います。

保護者と子どもが一緒に参加できる読み聞かせ講座や子どもの本の講座等、保護者・児童のニーズに合わせた内容・日程の講座や行事を開催します。

³⁰レファレンス：日常生活や調査研究上の情報や資料を求めた際に、図書館司書が必要な情報や資料を検索、提供、回答することにより、これを助ける業務。

キ) 子ども向け広報の充実

ちらしやポスターによる広報を行うとともに、市立図書館ホームページからも、行事のお知らせや利用案内が容易に検索できるよう、情報発信に努めます。また、広く呼びかけるためSNS等も活用します。

ク) すべての子どもが利用しやすい環境づくり

母語が日本語でない子ども向けに、外国語で書かれた絵本を収集するとともに、大阪府立図書館や他市の図書館で所蔵している外国語の本についても、情報提供を行います。また外国語での読み聞かせや、おはなし会を開催します。

障害のある子ども向けに、デイジー図書やサピエ³¹の周知・利用促進に努めます。

ケ) 本市にゆかりのある作家と作品の紹介・普及

図書館では、川端康成や富士正晴の作品を紹介するほか、郷土の作家を子どもたちに身近に感じてもらうため、現在活躍している本市にゆかりのある作家とその作品等についても、幅広く紹介し、親しむ機会を提供します。

コ) 「子ども読書の日」の普及

「子ども読書の日」の普及に努め、「こどもの読書週間」におはなし会や子ども向け行事を開催し、広報等で、関連行事としてのPRを行い、子どもの読書活動の推進を図ります。



中央図書館 児童室

³¹サピエ：視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して、点字、デイジーデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報など様々な情報を提供するネットワーク。

2 基本方針Ⅱ 関係機関の連携と人材の育成

子どもの成長には保護者や教員等をはじめ、多くの大人が関わっています。それぞれが連携し、相互に協力しながら子どもの読書活動を推進していく必要があります。また、子どもの読書活動推進に関わる人材の育成が不可欠です。

(1) 連携による取組

いつでもどこでも自主的に読書活動を行えるようにするため、子どもが多くの時間を過ごす学校等の施設と地域の関連施設、さらに地域の生涯学習の拠点である市立図書館が連携体制を整備し、相互に協力しながら子どもの読書活動を推進します。

ア) 団体貸出の利用促進

地域で子どもが集まる施設や保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校等に対して、中央図書館と4つの分館が団体貸出を行い、子どもたちに多様な図書を提供します。また、団体貸出の活用方法等の周知に努めます。

イ) ブックリスト「おもしろい本みつけた」の活用

年齢に応じた、市立図書館司書おすすめの本を紹介したブックリスト「おもしろい本みつけた」を多くの人目にふれるよう、さまざまな施設に配付します。

ウ) 読み聞かせやおはなし会の開催

保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校、市内でのイベント等、図書館を含め子どもが集まる場所で、ボランティアによる読み聞かせを行います。また、開催等の情報提供に努めます。

エ) 市立図書館の見学、職場体験

中央図書館と4つの分館で保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校等からの見学を受け入れ、来館した子どもたちに利用案内・館内見学を実施し、図書館の使い方を周知します。また、中学校からの職場体験を受け入れ、業務を体験してもらう中で、市立図書館を身近に感じ、本に親しむ機会を提供し読書への関心を高めます。



図書館見学



職場体験

オ) 学校と市立図書館との連携

「学校と公共図書館ねっとわーくプラン」に基づき、市立図書館司書が、学校訪問を行い、司書教諭及びスクールサポーターに情報提供を行うほか、意見交換や相談に応じます。また、司書教諭やスクールサポーターの連絡会に出席し、個々の学校の取組についての情報収集を行い、連携につなげます。

カ) ボランティアグループ等の情報提供

朗読や読み聞かせのグループ等についての情報を収集し、保育所（園）・幼稚園・認定こども園のほか、子育て関連施設に情報提供を行います。

キ) 生涯学習出前講座の実施

市立図書館司書が読み聞かせについての講座や、図書の修理実演、市立図書館の利用案内等を行います。図書館ホームページで過去の実施内容や、申込方法を掲載するなど情報発信に努めます。

ク) 地域団体・ボランティアのネットワークづくり

子どもの読書に関わる地域団体、ボランティアについて、情報収集を行い、連携してネットワークづくりに努めます。

ケ) 関係機関、地域団体、ボランティアとの連携・協力

それぞれの取組の中で、相互に連携・協力できるものを検討し、実践します。また、新たに連携して効果的に子どもの読書活動を推進できる取組を検討します。

(2) 子どもの読書に関わる人材の育成

子どもの成長に合わせて本を紹介し、読書意欲の向上を促すための取組には、図書館司書、司書教諭、スクールサポーター、ボランティアなど多くの大人が関わっています。子どもと本をつなぐ人材の育成や知識・技能の向上に努め、子どもの読書活動を支援します。

ア) 保育士・幼稚園教諭の読み聞かせ技術向上（保育幼稚園総務課）

保育士・幼稚園教諭の読み聞かせ技術向上のため、研修や情報交流を行います。

イ) 学校図書館に関わる人材の知識・技能の向上（学校教育推進課）

定期的に研修を行い、司書教諭、スクールサポーター、学校図書館ボランティアの知識・技能の向上に努めます。

ウ) 児童サービス担当職員のスキルアップ（中央図書館）

図書館内で研修を行うとともに、外部研修に積極的に参加し、知識・技能の向上に努めます。

エ) おはなし会ボランティアの技術向上（中央図書館）

おはなし会ボランティアの技術向上のため、定期的に研修会を実施します。

オ) 研修会の情報提供（中央図書館）

府立図書館の研修会等のお知らせを学校やボランティア、関係課等に情報提供します。

3 推進体制の整備

子どもの読書活動をさらに推進していくためには、家庭・地域・学校など多くの人々の連携・協力が必要です。第1次計画から現在もそれぞれの役割を果たしつつ、さまざまな取組を進めていますが、子どもを中心にそれらがつながったとき、より効果的な推進が図られます。一人ひとりの子どもたちが、周囲の大人たちのつながりの中で、さまざまな機会に本や読書に親しみ、自ら読書する習慣を身に付けることで、人生を豊かにしてほしいと考えます。

計画の実施にあたっては、庁内の子どもの読書活動に関係する各課で構成する連絡会を開催し、各課の取組の進捗状況について毎年取りまとめ、点検します。

また、子どもの読書活動の状況を継続的に把握するため、市内の小・中学校の児童生徒や、保育所（園）・幼稚園・認定こども園の保護者に対して、定期的にアンケート調査を実施し、分析を行います。

さらに各課の取組の進捗状況について、学識経験者などで構成される「茨本市図書館協議会」において報告し、意見を聴いて、取組に反映します。

子どもたちが成長して大人になったとき、本市でたくさんの本に出会った経験から、大人になっても読書を楽しみ、その大人が次の世代の子どもたちに本を読む楽しさをつないでいける「本が好きなまち・茨木」をめざして、継続してさまざまな取組を進めていきます。

資料編

【資料編】

- 1 子ども読書活動に関するアンケート調査結果・・・・・・・・・・32
（平成26年度、平成29年度、令和元年度）
- 2 学校と公共図書館ねっとわーくプラン・・・・・・・・・・67
- 3 茨木市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・74
- 4 子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・・・76

子ども読書活動に関するアンケート調査結果

本調査は茨木市における子ども読書活動の実態を把握し、読書活動を推進するうえでの基礎資料とするため、平成26年度よりおおむね2年ごとに実施しているものです。

1 アンケート調査の目的および概要

(1) 調査の目的

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を豊かなものにするなど生きる力を育むために大切なものです。

本市では平成26年度に第1回目のアンケート調査を行い、第2回目は平成29年度、令和元年度が3回目となります。今回のアンケート調査は、第2次計画策定以降の子どもの読書活動の実態を調査・分析し、更に今後の読書活動推進の取組に活かすために実施しました。

(2) 調査の概要

●調査対象 本調査は、市立小学校の2年生・5年生・市立中学校2年生、また保育所・保育園・認定こども園・幼稚園に在籍する4歳児の保護者を対象として実施しているものです。(小学生・中学生については、全校の約半数を抽出)

<各年度調査対象者数>

(単位：人)

	学年	平成26年度	平成29年度	令和元年度
小学生	2年生	1,459	1,210	1,390
	5年生	1,480	1,255	1,363
中学生	2年生	1,426	1,064	1,289
4歳児保護者	保育所(園)	186	107	123
	幼稚園	524	332	331

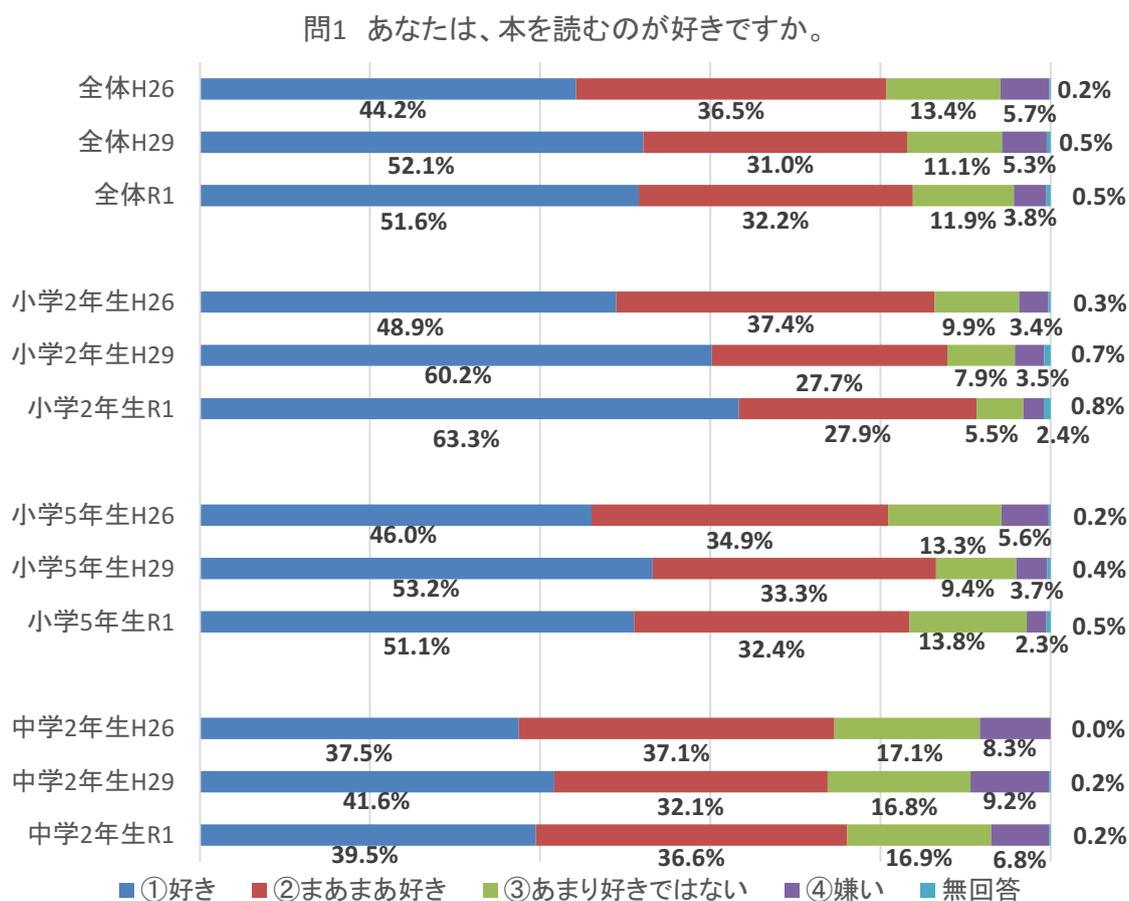
●調査時期 平成26年8月、平成29年7月、令和元年7月

2 小学2年生・小学5年生・中学2年生の読書活動の現状

(1) 読書に対する意識

問1「あなたは、本を読むのが好きですか」という質問に対して、本を読むのが「好き」「まあまあ好き」と回答した児童・生徒の割合は、全体で平成26年度 80.7%、平成29年度 83.1%、令和元年度 83.8%と増加傾向にあります。【図1】

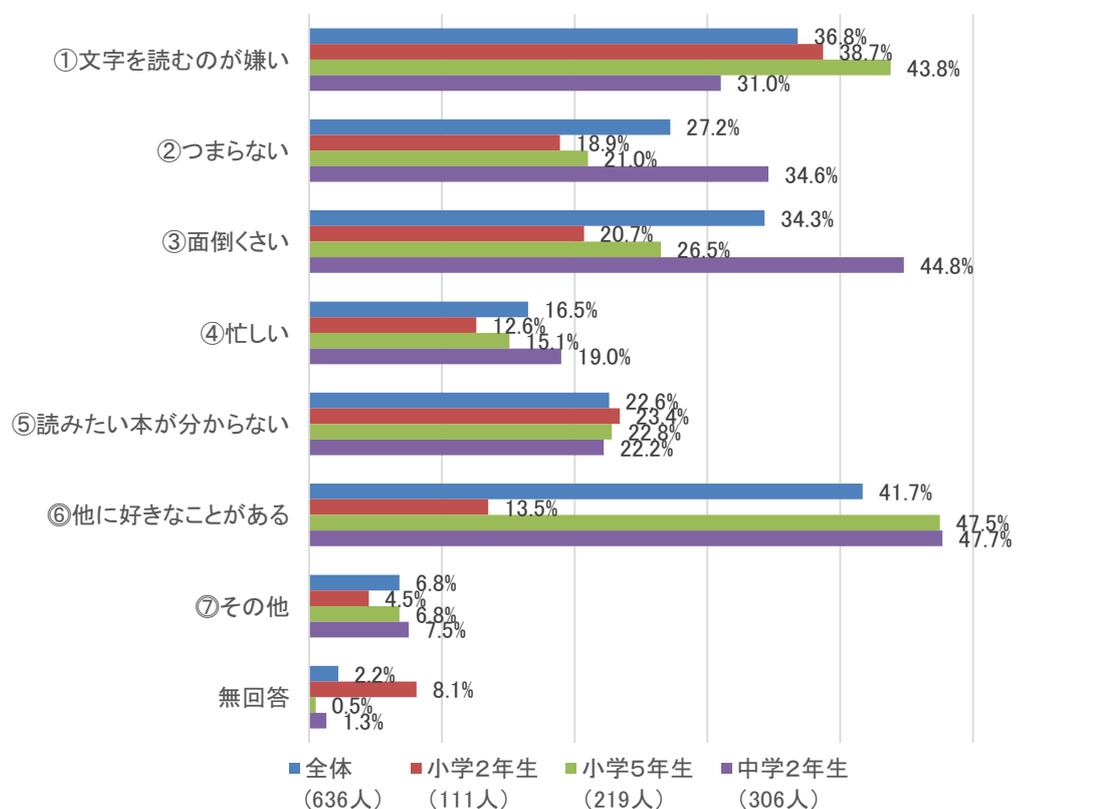
【図1】



問1で、本を読むのが「あまり好きではない」「嫌い」と答えた児童・生徒の割合は全体で、平成26年度 19.1%、平成29年度 16.4%、令和元年度 15.7%と減少していますが、「あまり好きではない」「嫌い」の理由（問2）としては、「他に好きなことがある」の回答が全体では最も多く、「文字を読むのが嫌い」の回答が、小学2年生では平成29年度 28.3%から、令和元年度 38.7%。小学5年生では、平成29年度 20.7%から、令和元年度 43.8%と前回より大幅に増加しています。さらに中学2年生では4割以上の生徒が「面倒くさい」と答えています。【図2】

【図2】

問2 問1で③「あまり好きでない」④「嫌い」を選んだ人は、教えてください。それはなぜですか。(複数回答可)[令和元年度]



問3 「あなたは小さい頃に家の人に本を読んでもらったことがありますか」という質問には、「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」と回答した児童・生徒が全体で、平成26年度84.9%、平成29年度75.8%、令和元年度88.2%となっており、平成29年度は、一旦減少しましたが、令和元年度では増加し、約90%となりました。

幼少期から読み聞かせを行うことが保護者に定着していること、子どもの読書に対する保護者の意識の高さが分かります。

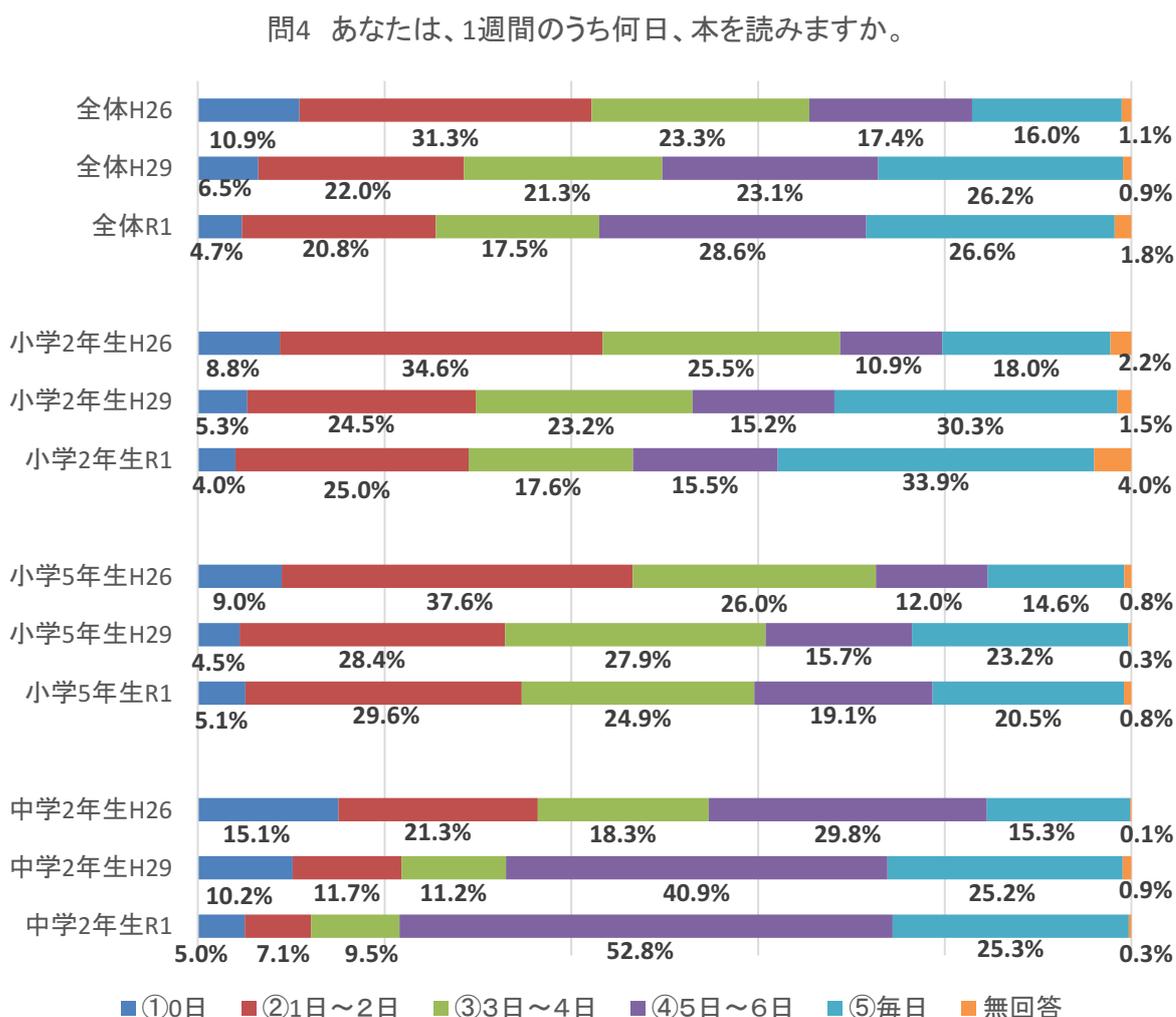
(2) 読書の頻度と量

問4「あなたは、1週間のうち何日、本を読みますか」という質問では、「毎日」と「5日～6日」と回答した児童・生徒の割合は、全体で平成26年度33.4%、平成29年度49.3%、令和元年度55.2%と増加しています。小学2年生では「毎日」が最も多くなりました。中学2年生では、「5日～6日」が最も多く、「毎日」と合わせると78.1%になります。【図3】

本を1週間に1日も読まない児童・生徒の割合は、全体で平成26年10.9%から平成29年度6.5%、令和元年度4.7%と減少しています。

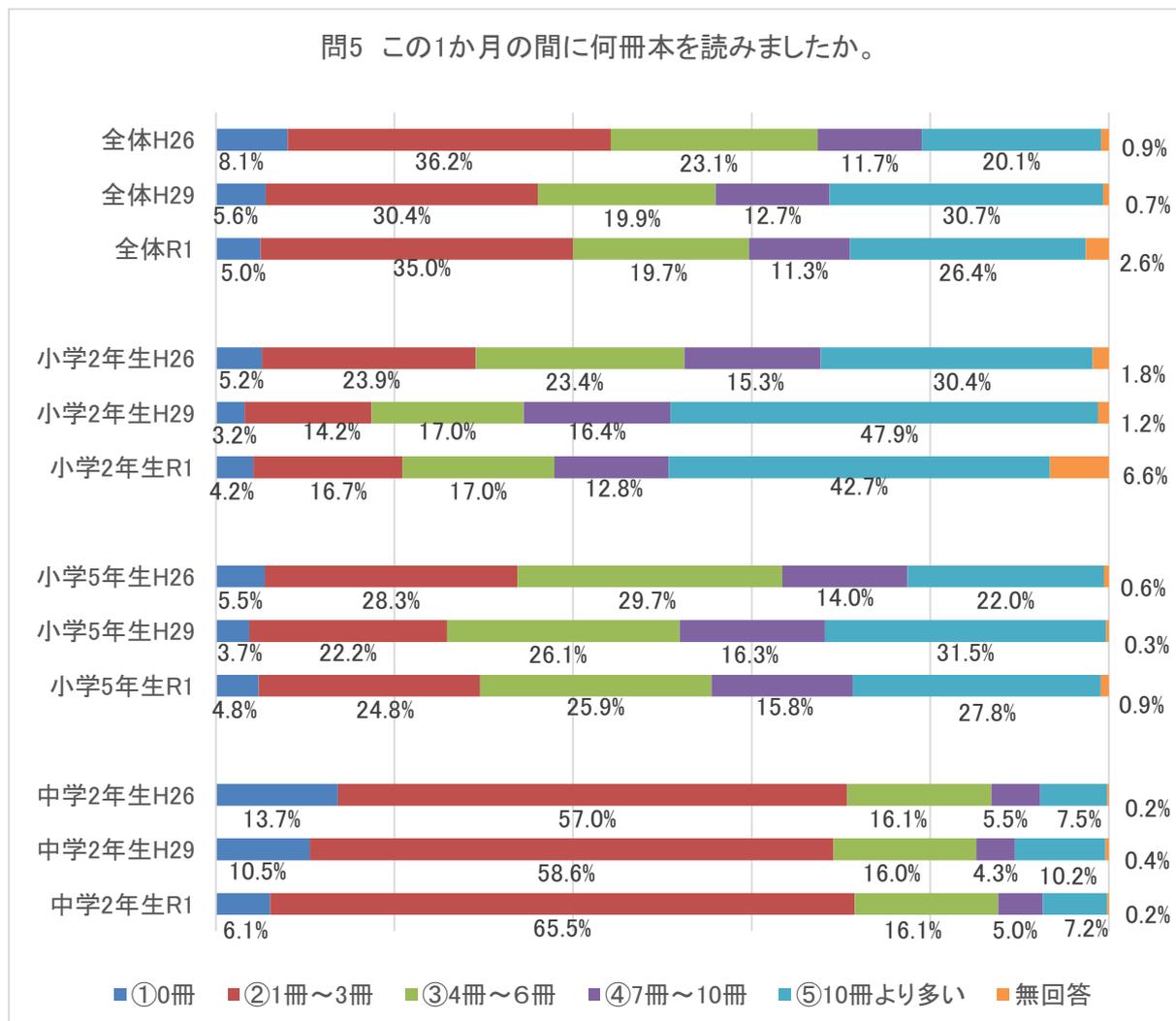
本市では全小・中学校で一斉読書に取り組んでおり、小学校では週1～2回、中学校では毎日、始業前に10分～15分程度、全員が読書をしています。この取組が読書をする機会に繋がっていると考えられます。

【図3】



問5「この1か月に何冊の本を読みましたか」という質問に対して、「0冊」の回答は全体で、平成26年度8.1%、平成29年度5.6%、令和元年度5.0%と減少しています。【図4】

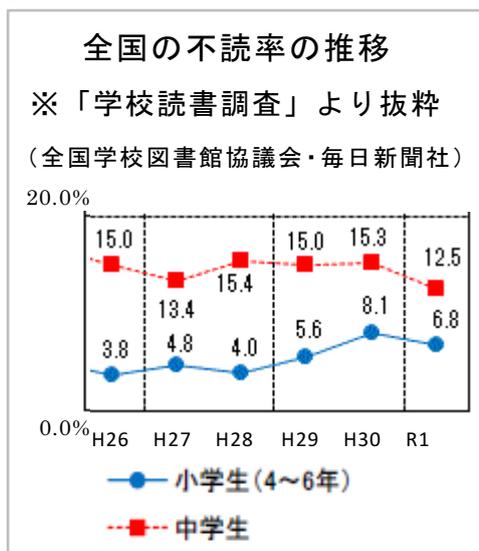
【図4】



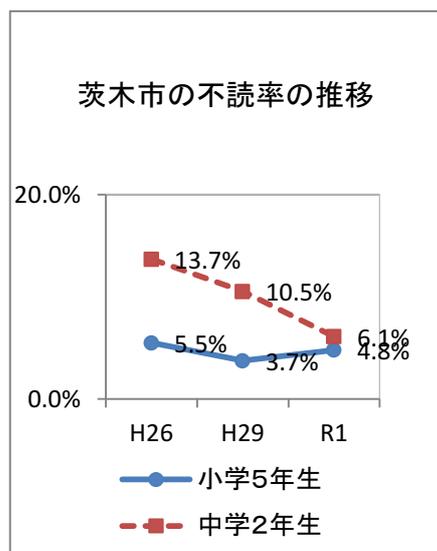
この1か月に1冊も本を読まない人の割合は「不読率」と言われています。^{ふどくりつ}毎日新聞と全国学校図書館協議会が実施している『学校読書調査』の結果と比較すると、平成26年度では全国の小学4～6年生の不読率3.8%に対して茨木市の小学5年生は5.5%、全国の中学生15.0%に対して茨木市の中学2年生は13.7%でしたが、平成29年度以降は、どの学年も、全国の割合を下回っています。【図5】【図6】

令和元年度では、全国の小学4～6年生の不読率6.8%、中学生12.5%に対して、茨木市の小学5年生は4.8%、中学2年生は6.1%でした。

【図5】



【図6】



問5で「0冊」と答えた児童・生徒が「本を読まなかった理由」(問6)(複数回答可)で、多かった回答は、小学2年生では、「インターネットやゲーム」37.9%、「本が好きではない」29.3%、「友達と遊ぶ」22.4%、「読みたい本がない」17.2%となっています。小学5年生では、「インターネットやゲーム」40.0%、「本が好きではない」38.5%、「友達と遊ぶ」33.8%となっています。中学2年生では、「本が好きではない」53.2%、「インターネットやゲーム」40.5%、「読みたい本がない」36.7%となっています。年々、スマートフォンなどの所有が増えており、インターネットの使用(オンラインゲームも含む)も増えていると考えられます。

(3)本や情報の入手経路・探し方

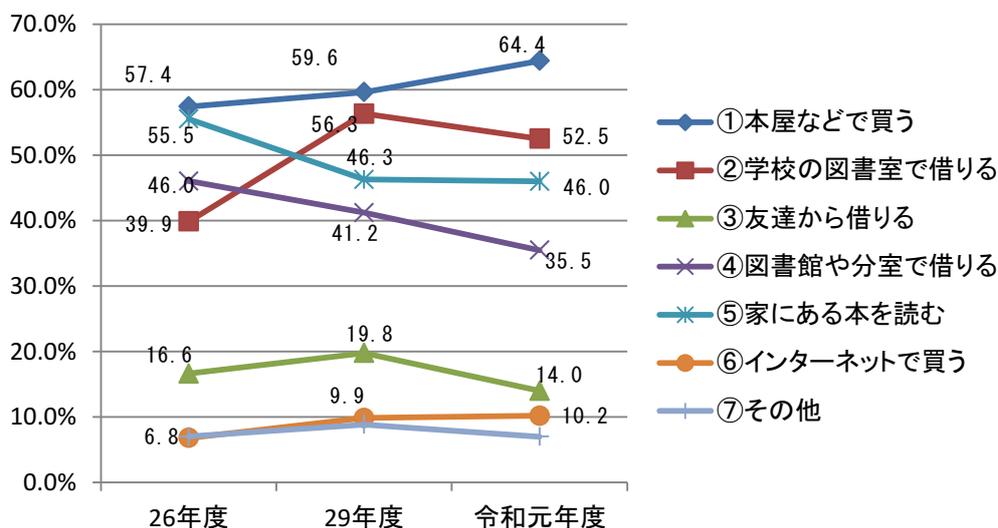
問7「あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか」という質問に対しては、「本屋などで買う」という回答が学年を上がるごとに増加しています。「インターネットで買う」と答えた児童・生徒は全体の10%程度です。中学2年生は、平成26年度9.1%、平成29年度11.3%、令和元年度14.7%と増加しています。【図7】

また、「借りる」という回答でみると、小学生では「学校の図書室で借りる」が多くなっています。すべての学年で「市立図書館で借りる」の割合は減少しています。

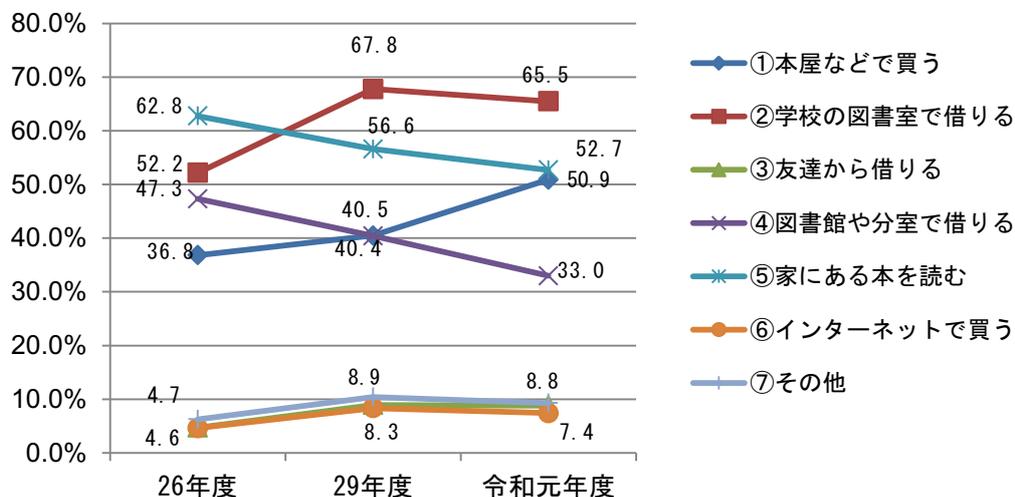
【図7】

問7 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(複数回答可)

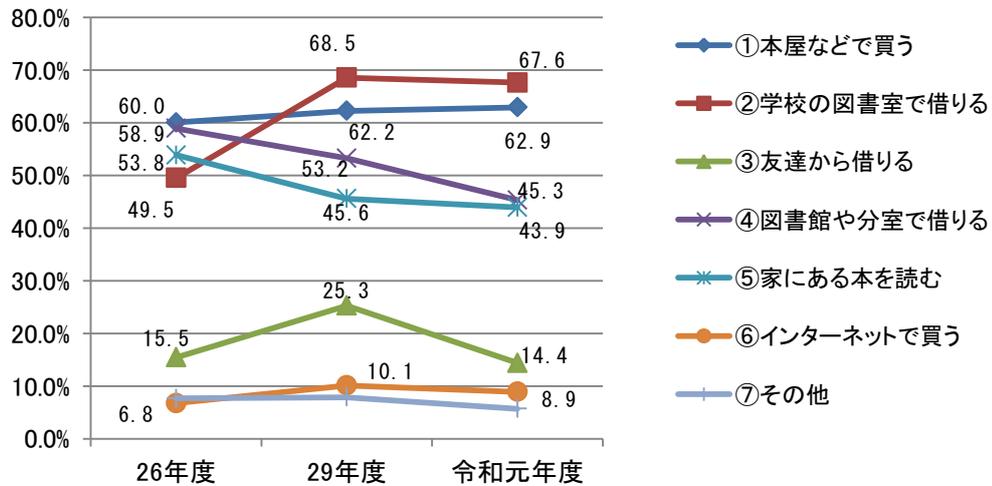
<全体回答>



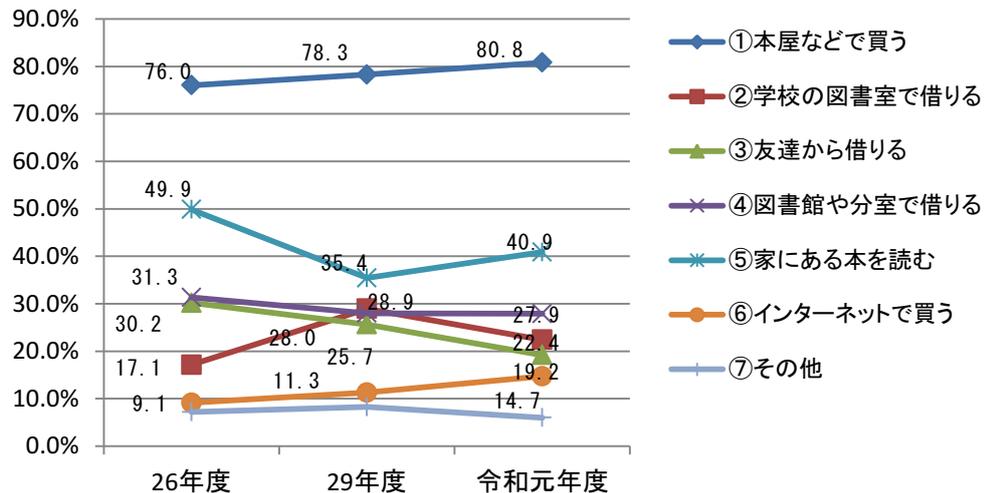
<小2回答>



<小5回答>



<中2回答>



問8「読みたい本の探し方」については、小学2年生では「家の人に聞く」、小学5年生、中学2年生では「書店で探す」が最も多くなっています。「先生や図書室の先生に聞く」は、各学年とも増加しています。「インターネットで調べる」は学年が上がるほど割合が高くなっています。

問9「あなたは、知りたいことや、わからないことがあった時、どのようにして調べますか」との質問については、「家の人に聞く」が小学2年生、小学5年生の回答が多く、中学2年生は「インターネットで調べる」が、90%近くに達しています。【図8】

また、調査の回を追うごとに、小学2年生では、「学校の図書室で調べる」

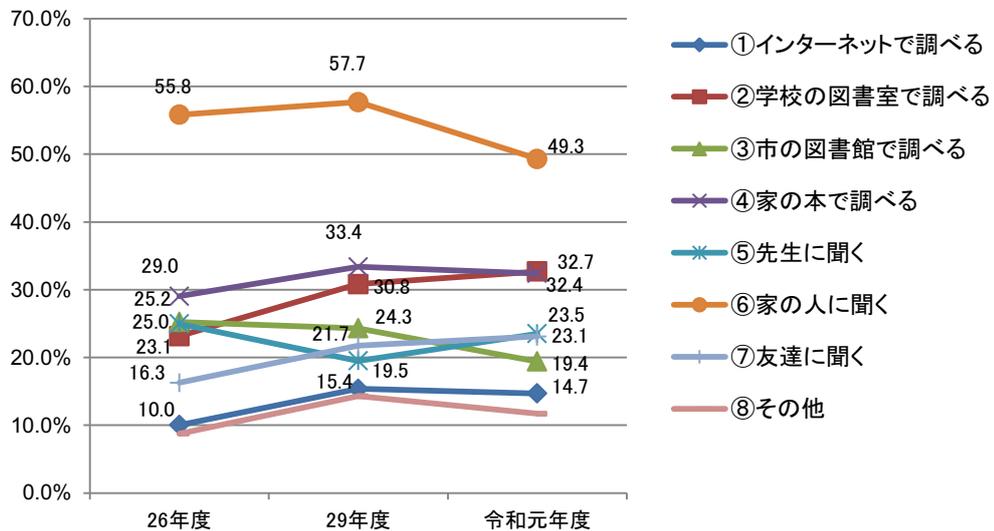
が増えています。一方で、「市の図書館で調べる」はどの学年でも減少しています。毎日通う学校の図書室が、学校図書館支援員の配置により整備され、授業や休み時間に利用するところとして子どもたちに定着してきた成果が出ています。

一方「インターネットで調べる」という回答は、中学2年生の90%弱、小学5年生の60%弱にのぼり、インターネットが情報探索のツールとして子どもたちに定着している様子がうかがえます。中学2年生は「まずはインターネットで調べる」「本で調べるよりも人に聞く」という傾向があるようです。

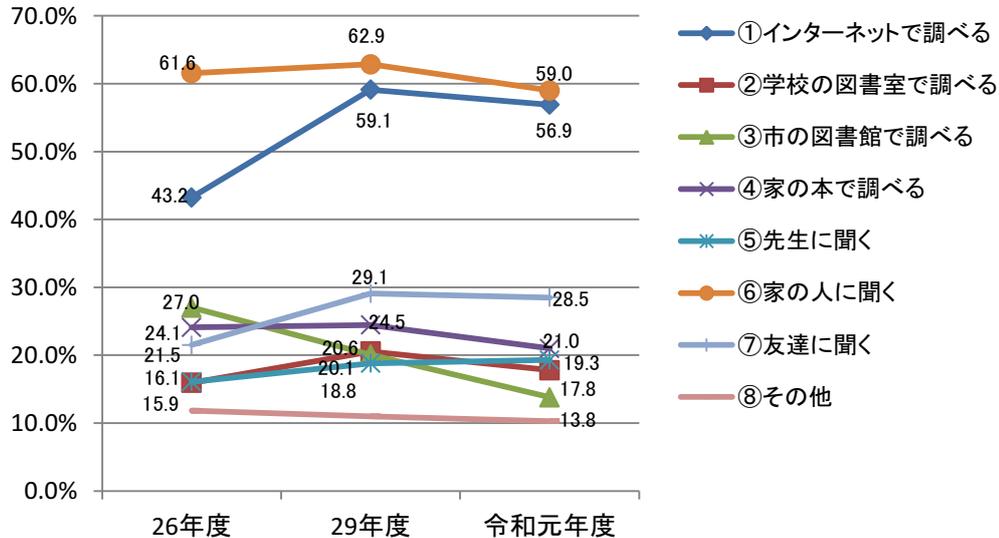
【図8】

問9 あなたは、知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか。
(複数回答可)

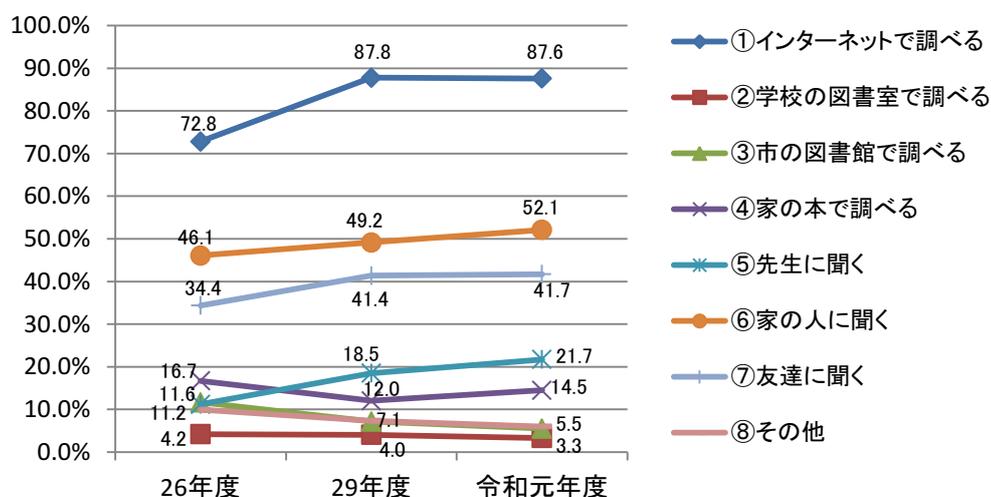
<小2回答>



<小5回答>



<中2回答>

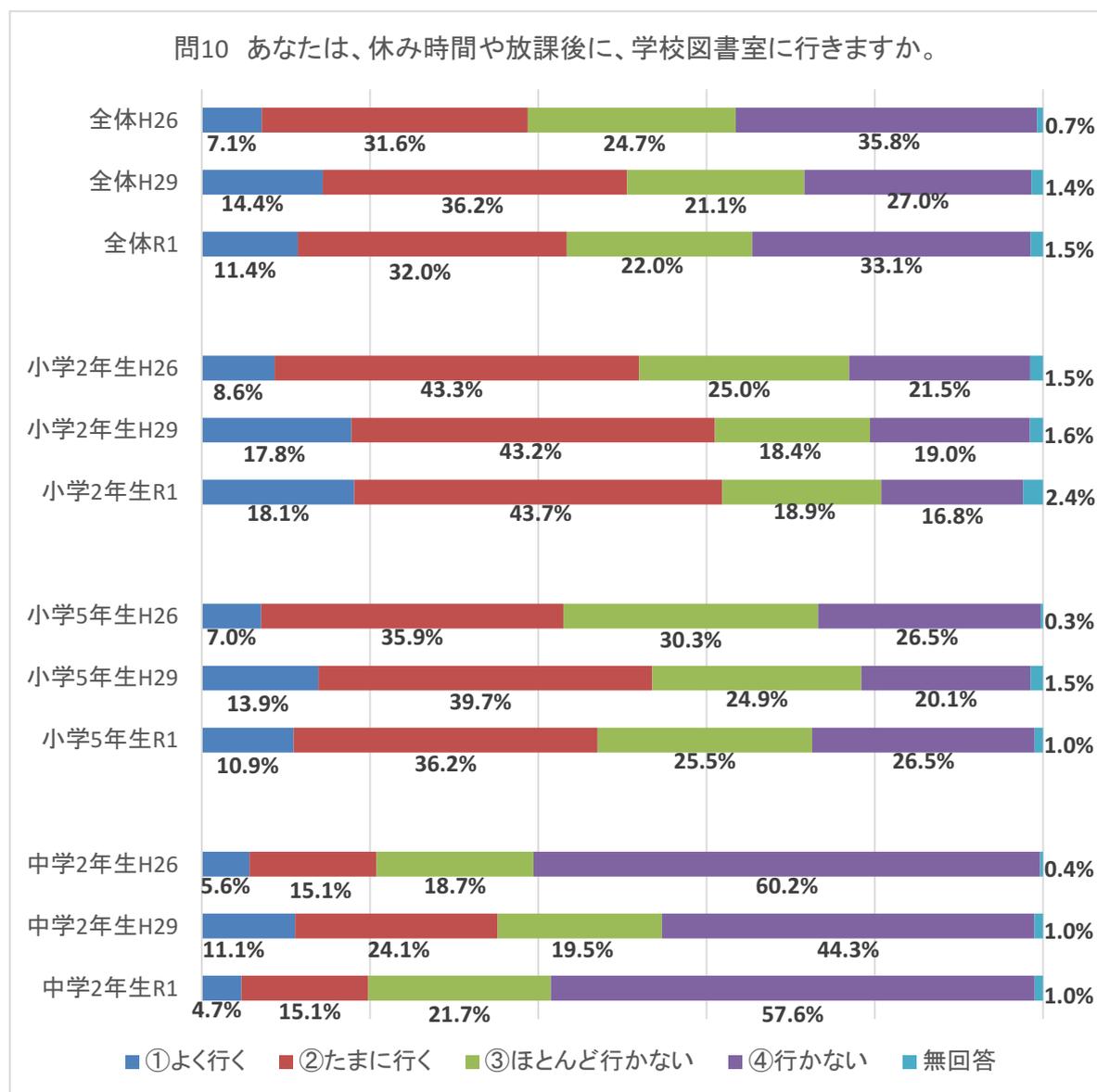


(4) 学校図書館、市立図書館の利用について

問 10「休み時間や放課後に、学校の図書室に行きますか」という質問について、「行かない」の回答は学年があがるにつれて増加しています。この傾向は前回の調査と同様です。

また、小学2年生では、「よく行く」「たまに行く」を合わせると、平成26年度51.9%、平成29年度61.0%、令和元年度61.8%と増加しています。【図9】

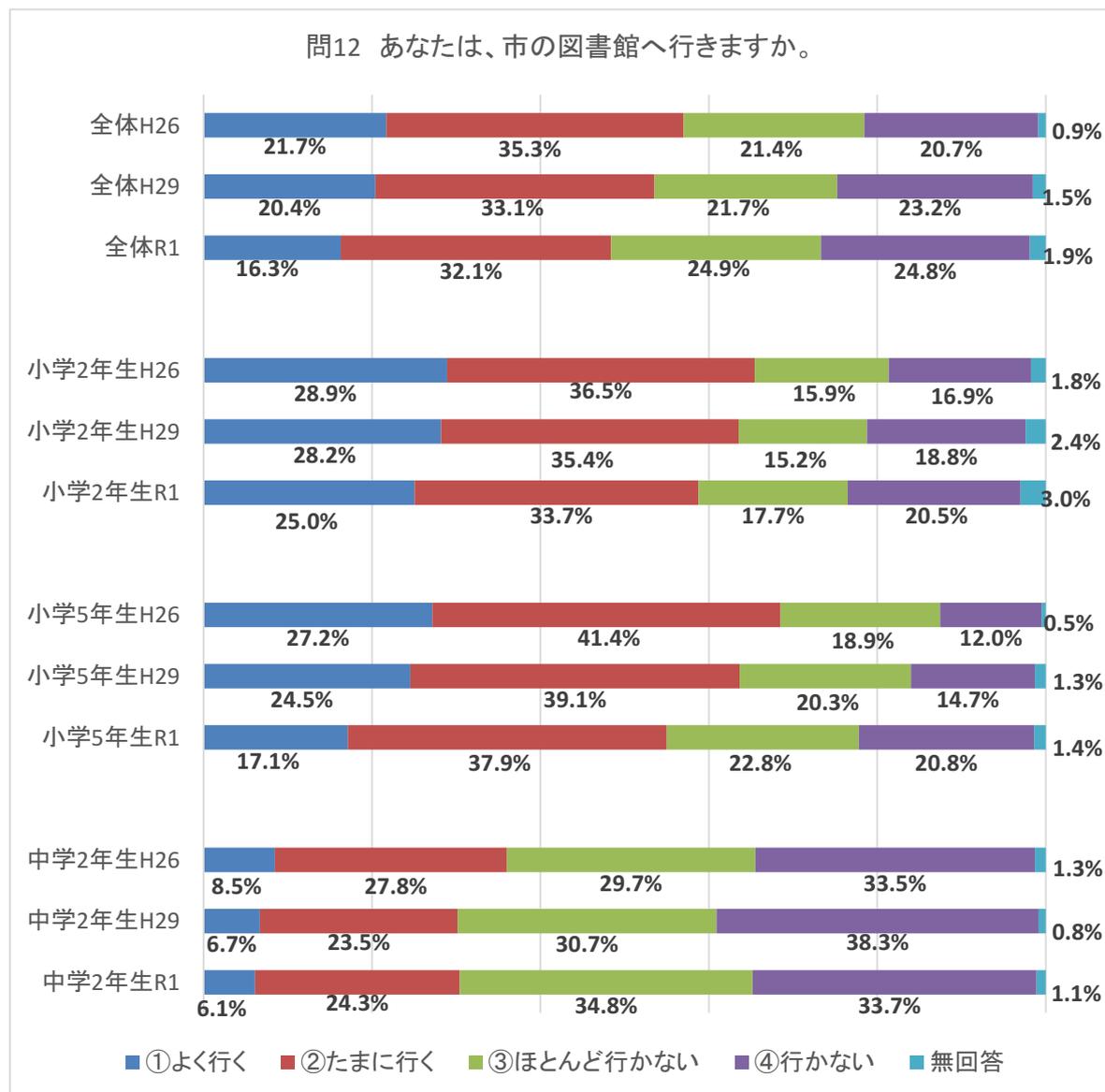
【図 9】



問 10 で学校図書館に「行かない」と回答した理由（問 11）については、すべての学年において「他の遊びをしたい」が最も多くなっており、平成 26 年度、29 年度の調査と同様の傾向でした。「本を読みたくない」の回答は、全ての学年で減少しています。

問 12「あなたは、市の図書館へ行きますか」という質問の回答では、「ほとんど行かない」「行かない」を合わせた割合は全体で平成 26 年度 42.1%、平成 29 年度 44.9%、令和元年度 49.7%と増加しています。【図 10】

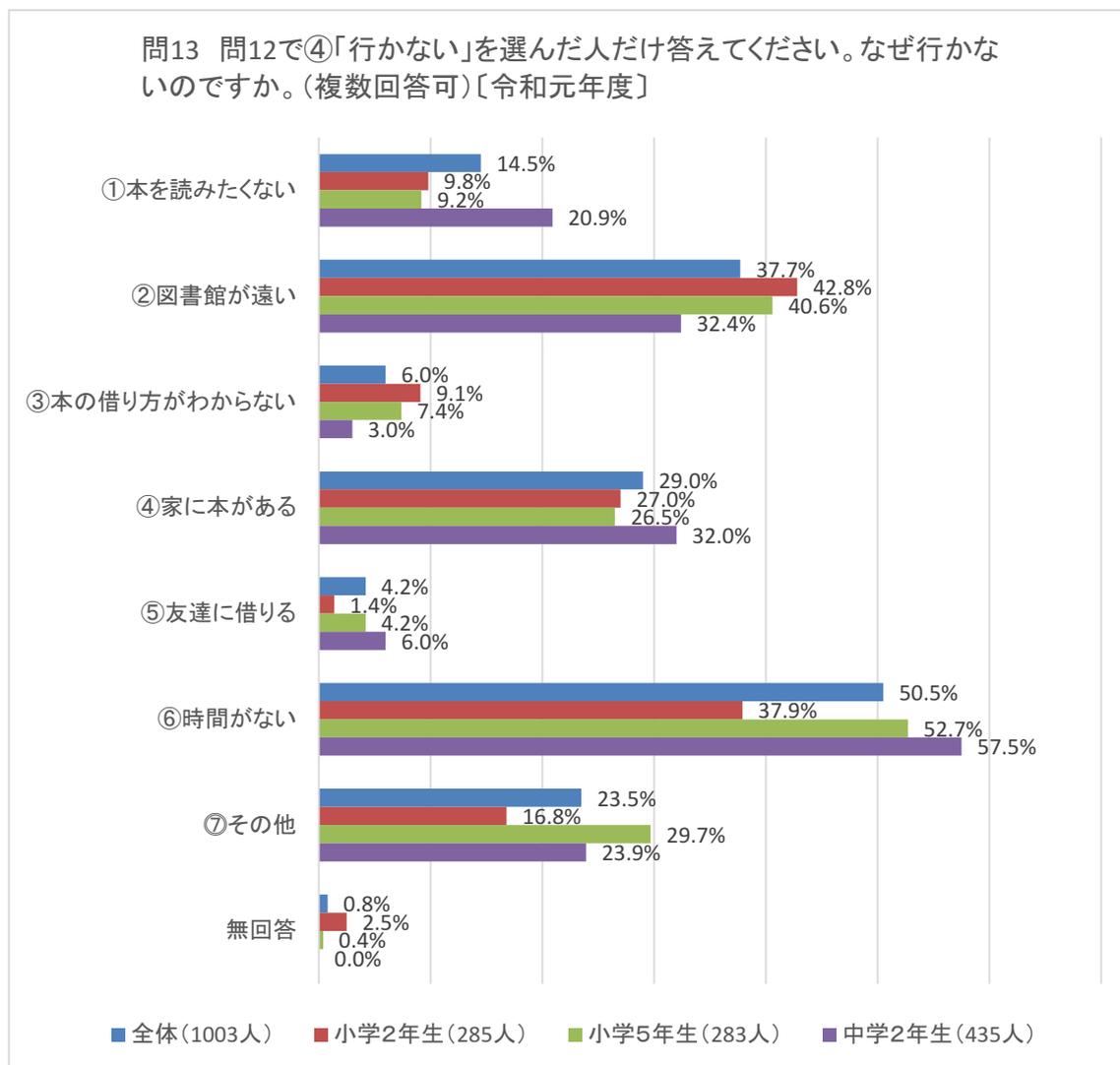
【図 10】



問 13「市立図書館に行かない理由」については、「時間がない」という回答が全体で最も多く、平成 26 年度の調査よりも増加しています。次に多いのが「図書館が遠い」で、40%程度の児童・生徒がそう回答しています。「時間がない」以外の回答比率は「友達に借りる」が半減していますが、平成 26 年度の調査とそれほど大きな変化は見られません。【図 11】

対象別では、年齢が上がるほど「時間がない」と回答し、年齢が下がるほど「図書館が遠い」と回答しています。

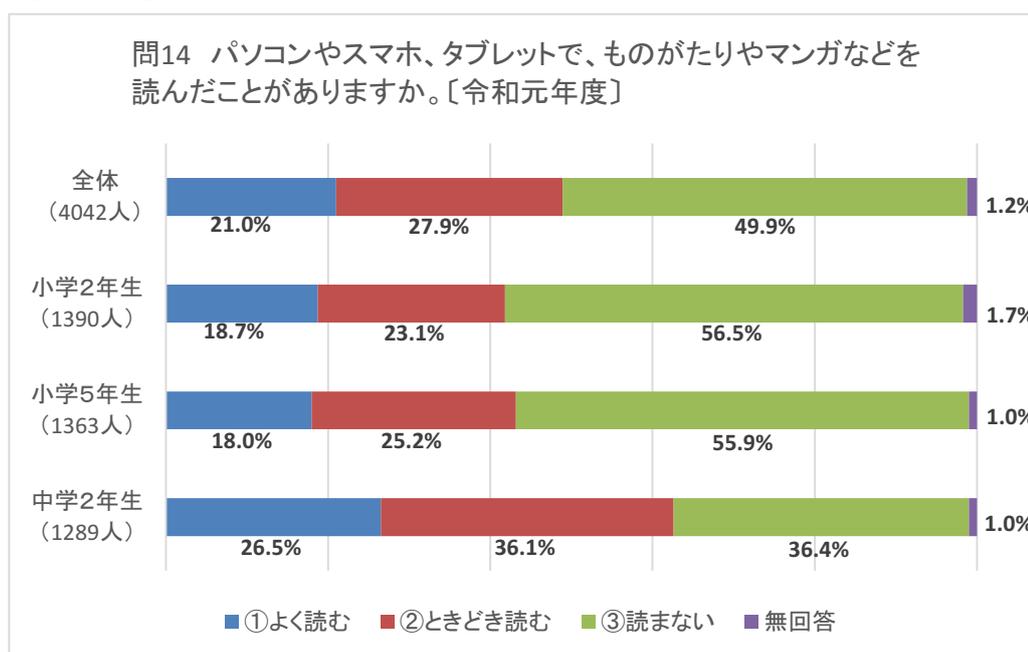
【図 11】



(5) 図書などの紙媒体以外での読書

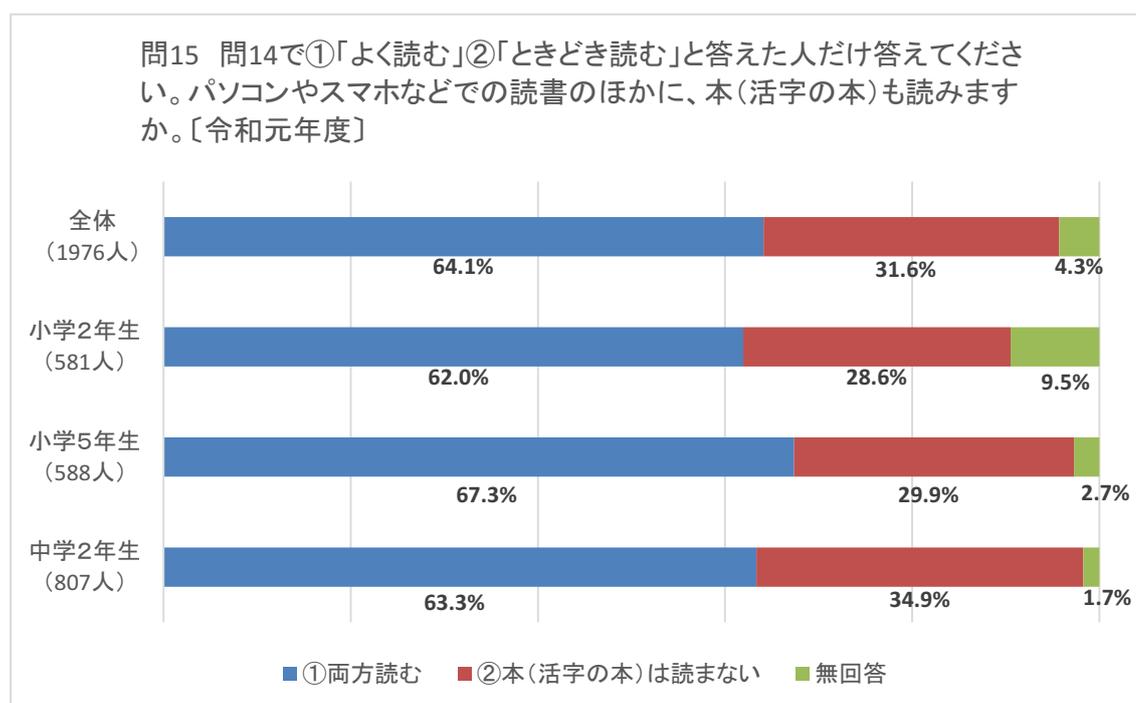
問 14 「インターネットやスマホ、タブレットで、ものがたりやマンガなどを読んだことがありますか」という質問について、「よく読む」「ときどき読む」の回答はすべての学年で増加しています。今回の結果では「よく読む」「ときどき読む」と答えた比率は、小学2年生と5年生では40%程度でありませんが、中学2年生が60%以上と高くなっています。【図 12】

【図 12】



問 14 で「よく読む」「ときどき読む」と回答した児童・生徒のうち、「パソコン、スマホなどでの読書のほかに、本（活字の本）も読みますか」（問 15）という質問では、いずれの学年でも「両方読む」の回答が 60%以上となっており、読書する児童・生徒は媒体に関係なく読んでいることが分かります。【図 13】

【図 13】



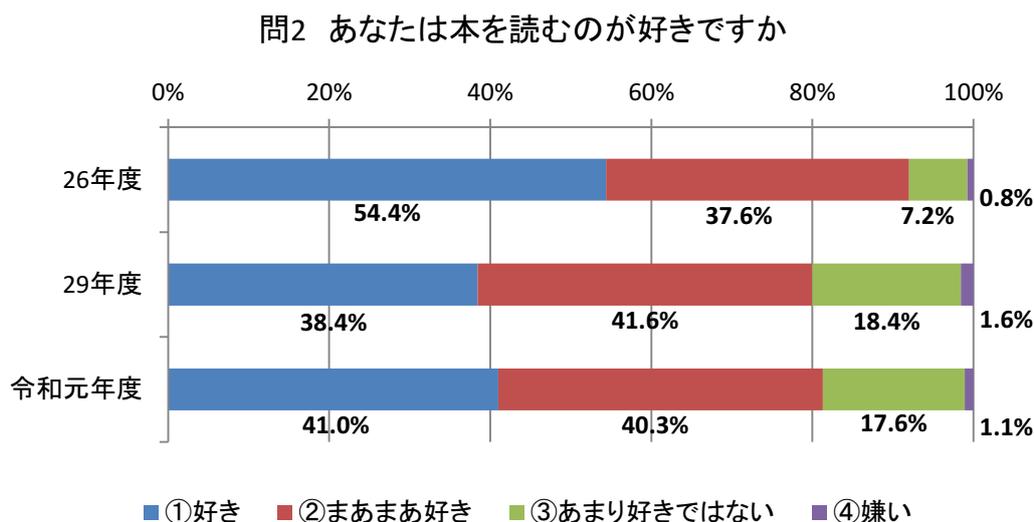
3 4歳児の読書活動の現状

(1) 保護者の認識

保育所・幼稚園の4歳児の保護者のうち、問1「子どもが本を読むことや本に興味を持つことは、子どもの成長に必要なこと」と回答したのは、全体で、平成26年度98.4%、平成29年度97.6%、令和元年度96.9%と大多数を占めています。子どもへの読書の必要性について大多数の保護者が認識しているようです。

問2「あなたは本を読むのが好きですか」という質問には、「あまり好きではない」「嫌い」と回答した保護者が平成26年度8.0%、平成29年度20.0%、令和元年度18.7%となっています。【図14】

【図14】



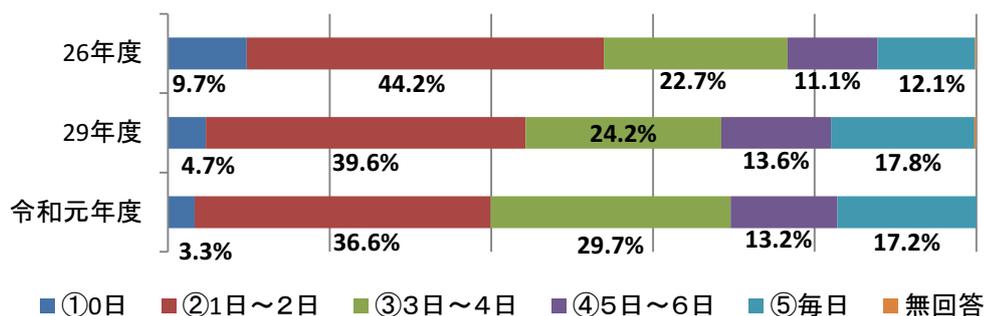
問3「保護者自身が子どものころに親から本を読んでもらったことがありますか」という質問については、ほぼ横ばいで75%程度が「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」と回答しています。

(2) 家庭での読書の現状

問4「子どもに1週間のうち、何日本を読んであげますか」という質問に対して、「0日」と答えた保護者は平成26年度と比較して3分の1程度に減少しました。一方で、3日以上のお返を選んだ保護者は、平成26年度45.9%、平成29年度55.6%、令和元年度60.1%となっており、全体的に読む日数が多くなっています。【図15】

【図 15】

問4 子どもに1週間のうち、何日、本を読んであげますか。



問5 「子どもに最近 1 か月で何冊本を読んであげましたか」という質問では「0冊」が全体の回答で、平成 26 年度 3.9%、平成 29 年度 2.2%、令和元年度 0.7%と5年間で5分の1以下に減少し、「11冊以上」が全体の回答で、平成 26 年度 29.2%、平成 29 年度 39.3%、令和元年度 42.7%と大幅に増加しました。

問5で「0冊」と回答した理由（問6）については、「家事が忙しいから」が平成 26 年度 24.0%、平成 29 年度 70.0%、令和元年度 100%、「仕事が忙しいから」は平成 26 年度 28.0%、平成 29 年度 50.0%、令和元年度 66.7%と多くの保護者が回答しています。

(3) 子どもと本との出会い

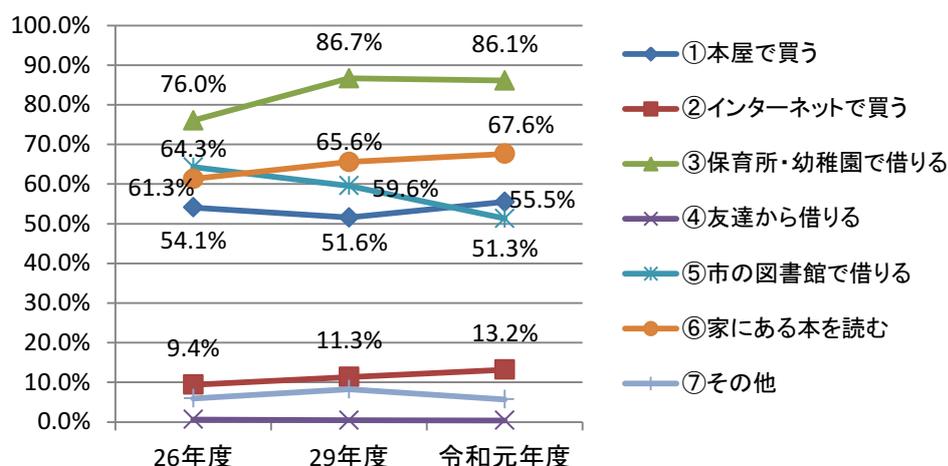
問7 「あなたの子どもは本を読んでもらうことが好きですか」の回答では「好き」「まあまあ好き」の合計が、全体では平成 26 年度 96.6%、平成 29 年度 97.8%、令和元年度 98.9%と回答しており、「嫌い」という回答は平成 26 年度から一貫して0%でした。

問8 「子どもの本をどのように用意しますか」という質問では、「保育所・幼稚園で借りる」が一番多くなっています。次いで「家にある本を読む」「本屋で買う」「市の図書館で借りる」が、それぞれ 50%以上、回答されています。【図 16】

5年間で「保育所・幼稚園で借りる」が全体の 76.0%から 86.1%と大きく伸びました。保育所・幼稚園では、日常的に絵本や紙芝居の読み聞かせを行っており、絵本の貸出なども行う中で、子どもたちにとって身近な場所である保育所・幼稚園が、本と出会える場所になっていることがわかります。

【図 16】

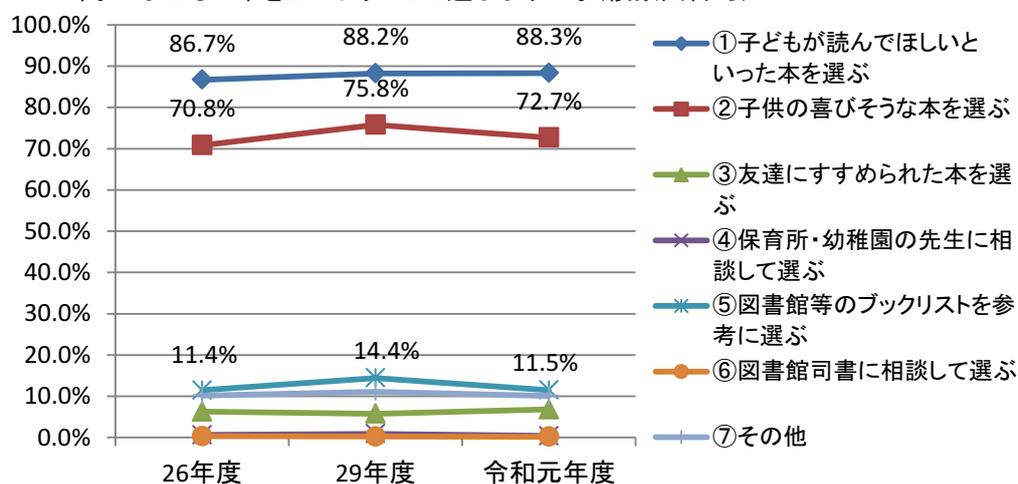
問8 子どもの本をどのようにして用意しますか。(複数回答可)



問9「子どもの本をどのようにして選びますか」という質問では、「子どもが読んで欲しいといった本」88.3%、「子どもの喜びそうな本」72.7%が多く、前回2回の調査と同様に、子どもの選択を重視していることが分かります。また、11.5%の保護者が「図書館等のブックリストを参考に選ぶ」と回答しており、ブックリストが活用されていることがわかりました。【図 17】

【図 17】

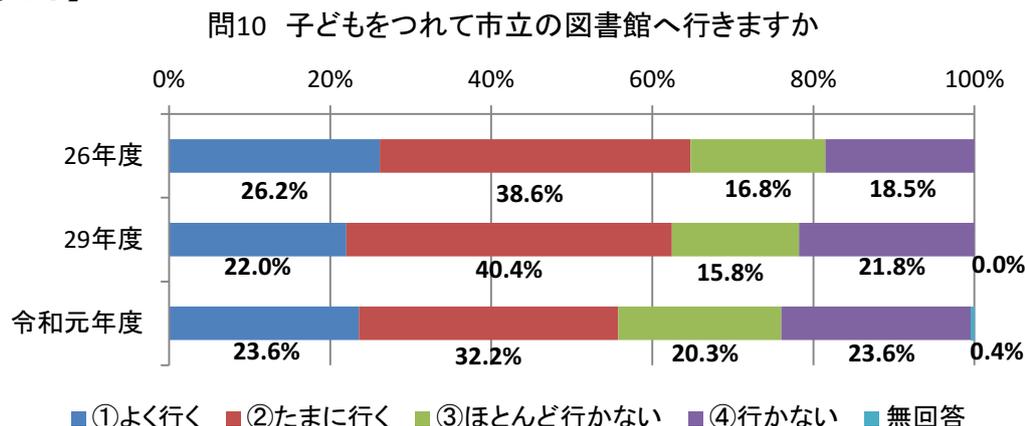
問9 子どもの本をどのようにして選びますか。(複数回答可)



(4) 市立図書館の利用

問 10「子どもをつれて市立の図書館へ行きますか」という質問について、全体として、「ほとんど行かない」「行かない」が平成 26 年度 35.3%、平成 29 年度 37.6%、令和元年度 43.9%となっています。【図 18】

【図 18】



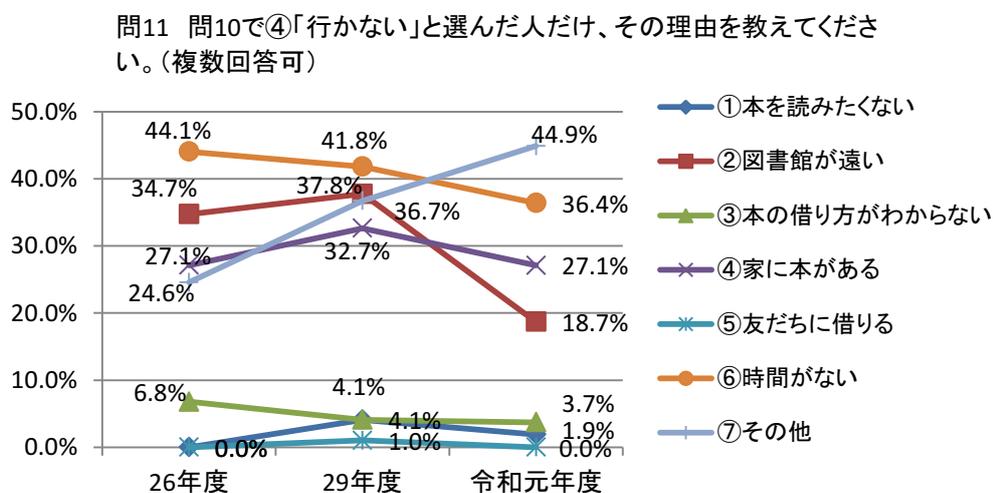
問 10 で「ほとんど行かない」「行かない」と回答した理由（問 11）については、「その他」が最も多く、次いで「時間がない」「家に本がある」「図書館が遠い」となっています。【図 19】

「その他」の理由では、多い順に「子どもがうるさくしそうで連れていけない」、「行きたいとは思いつつ小さな妹弟もいるため連れていきにくい」、「幼稚園・保育園・保育所で借りる」となりました。図書館に連れていきたくても子どもが騒ぐので、行きづらいと感じている保護者が多いことがわかりました。

また、保育所や幼稚園で本を借りることが増え、忙しい中で、わざわざ市立図書館へ行かなくなっていることも考えられます。

市立図書館を利用したことがない人が足を運んでくれるよう、移動図書館がイベントに出向き本の貸出を行うなどの取組が必要です。

【図 19】



4 アンケート調査の結果から見えてきた現状と課題

(1) 小学 2 年生・小学 5 年生・中学 2 年生

・全体で本を読むのが「好き」、「まあまあ好き」と 80%以上が回答しており、本が好きと答えている児童生徒が多くなっています。また、1 週間の本の読む頻度については、平成 26 年度からの 5 年間で、「毎日」の回答は増加しており、また、「0 日」の回答は減少しています。

・約 15%の児童生徒が本を読むのが「あまり好きでない」、「嫌い」と答えており、その理由として、約 20%の児童生徒が「読みたい本が分からない」と回答しています。本のすすめ方によって、子どもたちの読書意欲に繋がる可能性が考えられるため、ブックリストなどによる本の紹介を続ける必要があります。

・読みたい本を手に入れる方法については、小学 2 年生、5 年生ともに学校図書館で借りる児童が一番多くなりました。児童生徒にとって身近な学校図書館を充実すること、学校図書館と市立図書館が継続して連携を図ることが重要です。

・市立図書館への来館では、「ほとんど行かない」、「行かない」の回答が増えています。理由としては、全体で「時間がない」が多く、次いで「図書館が遠い」の回答も多くなっています。市立図書館を利用しない児童生徒に対して、来館してもらう工夫が必要です。

・インターネットを利用して読書や調べものをするという回答が平成 26 年度から増加傾向にあります。インターネットは手軽に利用できて便利な一方、時には正しくない情報も含まれていることがあります。今後も、学校図書館や市立図書館で、情報の適切な活用方法などを、児童生徒たちに発信していくことが必要です。

(2) 4歳児保護者

- ・「子どもが本を読むことや本に興味をもつことは、子どもの成長に必要なことだ」と、ほとんどの保護者は考えており、子どもにとっての「本を読むこと」の大切さを理解しています。

保護者自身も、「本を読むのが好き」、「まあまあ好き」の回答が 80%以上と多くなっており、子どもの頃に、家の人に「よく読んでもらった」、「時々読んでもらった」と回答している割合も 75%以上となっています。

- ・仕事や家事で忙しいなかでも、子どものために本を読んであげる日数、冊数がともに増えています。また、「あなたの子どもは、本を読んでもらうのが好きですか」の質問には、90%以上が「好き」、「まあまあ好き」と回答しています。

継続した読書活動につなげるためには、乳幼児期からの読み聞かせなど、家庭や地域での、本やおはなしのある環境づくりが重要です。

- ・子どもの本の入手先として、「幼稚園・保育園で借りる」が一番多くなっており、子どもが本と出合える場所として、保育所や幼稚園で読み聞かせを楽しんだり、本を借りたりできることは、読書活動を推進するうえで有効であることがわかります。

- ・「子どもをつれて市立の図書館へ行きますか」の質問には、「よく行く」、「たまに行く」と回答した保護者は、平成 26 年度から減少しており、図書館を利用しない保護者へのアプローチ方法を検討し、図書館を知ってもらい、利用してもらうことが必要です。

5 平成26年度・29年度・令和元年度アンケート調査結果

(1)小学生・中学生

①学校全体

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問1 あなたは、本を読むのが好きですか。

①好き	44.2%	52.1%	51.6%
②まあまあ好き	36.5%	31.0%	32.2%
③あまり好きではない	13.4%	11.1%	11.9%
④嫌い	5.7%	5.3%	3.8%
無回答	0.2%	0.5%	0.5%

問2 問1で③「あまり好きでない」④「嫌い」を選んだ人は、教えてください。それはなぜですか。
(複数回答可)

①文字を読むのが嫌い	—	20.4%	36.8%
②つまらない	—	13.2%	27.2%
③面倒くさい	—	15.2%	34.3%
④忙しい	—	6.3%	16.5%
⑤読みたい本が分からない	—	12.6%	22.6%
⑥他に好きなことがある	—	25.5%	41.7%
⑦その他	—	6.8%	6.8%
無回答	—	—	2.2%

問3 小さい頃に家の人に本を読んでもらったことがありますか。

①よく読んでもらった	44.7%	51.3%	53.9%
②時々読んでもらった	40.2%	24.5%	34.3%
③ほとんど読んでもらわなかった	14.3%	10.0%	10.6%
無回答	0.7%	1.0%	1.1%

問4 あなたは、1週間のうち何日、本を読みますか。

※朝読・図書の時間も含まれます。小説以外の科学の本なども入ります。教科書はのぞきます。

①0日	10.9%	6.5%	4.7%
②1日～2日	31.3%	22.0%	20.8%
③3日～4日	23.3%	21.3%	17.5%
④5日～6日	17.4%	23.1%	28.6%
⑤毎日	16.0%	26.2%	26.6%
無回答	1.1%	0.9%	1.8%

問5 この1か月の間に何冊本を読みましたか。

※朝読・図書の時間で読んだ本や読みかけの本も1冊に数えます。

①0冊	8.1%	5.6%	5.0%
②1冊～3冊	36.2%	30.4%	35.0%
③4冊～6冊	23.1%	19.9%	19.7%
④7冊～10冊	11.7%	12.7%	11.3%
⑤10冊より多い	20.1%	30.7%	26.4%
無回答	0.9%	0.7%	2.6%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問6 問5で①「0冊」を選んだ人は教えてください。本を読まなかったのはなぜですか。
(複数回答可)

①本が好きではない	40.1%	58.6%	41.6%
②勉強が忙しい	14.9%	27.8%	17.3%
③テレビやDVDを見る	24.6%	33.3%	27.2%
④インターネットやゲーム	30.7%	40.4%	39.6%
⑤友達と遊ぶ	34.2%	37.9%	31.2%
⑥読みたい本がない	41.8%	46.0%	28.7%
⑦その他	17.0%	1.1%	14.4%
無回答	1.5%	—	3.0%

問7 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(複数回答可)

①本屋などで買う	57.4%	59.6%	64.4%
②学校の図書室で借りる	39.9%	56.3%	52.5%
③友達から借りる	16.6%	19.8%	14.0%
④図書館や分室で借りる	46.0%	41.2%	35.5%
⑤家にある本を読む	55.5%	46.3%	46.0%
⑥インターネットで買う	6.8%	9.9%	10.2%
⑦その他	7.0%	8.9%	7.0%
無回答	1.6%	—	1.1%

問8 あなたは、読みたい本をどのようにして探しますか。(複数回答可)

①先生に聞く (学校の図書室の先生も含むのことばを令和元年度から入れた)	3.9%	9.7%	17.3%
学校図書館で探す(H26年度)	31.9%	—	—
②図書館の人に聞く	41.0%	18.9%	14.4%
③家の人に聞く	22.5%	29.7%	29.6%
④友達に聞く	17.7%	24.1%	22.9%
⑤インターネットで調べる	17.3%	26.1%	24.2%
⑥書店で探す	53.2%	47.7%	45.0%
⑦その他	11.6%	23.9%	18.4%
無回答	1.4%	—	1.7%

問9 あなたは、知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか。
(複数回答可)

①インターネットで調べる	41.7%	52.8%	52.2%
②学校の図書室で調べる	14.5%	19.1%	18.3%
③市の図書館で調べる	21.4%	17.6%	13.1%
④家の本で調べる	23.4%	23.8%	22.9%
⑤先生に聞く	17.5%	19.0%	21.5%
⑥家の人に聞く	54.6%	57.0%	53.5%
⑦友達に聞く	23.9%	30.3%	30.9%
⑧その他	10.2%	11.0%	9.4%
無回答	1.9%	—	1.7%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問10 あなたは、休み時間や放課後に、学校図書室に行きますか。
※図書の時間は、のぞきます。

①よく行く	7.1%	14.4%	11.4%
②たまに行く	31.6%	36.2%	32.0%
③ほとんど行かない	24.7%	21.1%	22.0%
④行かない	35.8%	27.0%	33.1%
無回答	0.7%	1.4%	1.5%

問11 問10で④「行かない」を選んだ人だけ、教えてください。学校図書室に行かないのはなぜですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	12.0%	15.9%	10.4%
②読みたい本がない	30.0%	28.4%	25.0%
③他の遊びをしたい	45.3%	60.3%	62.8%
④習い事や塾や部活や委員会がある	31.5%	27.2%	24.7%
⑤その他	20.4%	26.2%	18.2%
無回答	0.8%	—	1.0%

問12 あなたは、市の図書館へ行きますか。

①よく行く	21.7%	20.4%	16.3%
②たまに行く	35.3%	33.1%	32.1%
③ほとんど行かない	21.4%	21.7%	24.9%
④行かない	20.7%	23.2%	24.8%
無回答	0.9%	1.5%	1.9%

問13 問12で④「行かない」を選んだ人だけ教えてください。なぜ行かないのですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	18.6%	19.3%	14.5%
②図書館が遠い	35.0%	35.6%	37.7%
③本の借り方がわからない	5.4%	7.3%	6.0%
④家に本がある	27.9%	29.6%	29.0%
⑤友達に借りる	8.2%	7.2%	4.2%
⑥時間がない	41.6%	53.0%	50.5%
⑦その他	25.7%	38.8%	23.5%
無回答	1.1%	—	0.8%

問14 パソコンやスマホ、タブレットで、ものがたりやマンガなどを読んだことがありますか。

①よく読む	39.9%	19.7%	21.0%
②ときどき読む		26.0%	27.9%
③読まない	59.3%	52.7%	49.9%
無回答	0.8%	1.6%	1.2%

問15 問14で①「よく読む」②「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか。

①両方読む	—	68.1%	64.1%
②本(活字の本)は読まない	—	28.8%	31.6%
無回答	—	3.5%	4.3%

②小学校2年生

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問1 あなたは、本を読むのが好きですか。

①好き	48.9%	60.2%	63.3%
②まあまあ好き	37.4%	27.7%	27.9%
③あまり好きではない	9.9%	7.9%	5.5%
④嫌い	3.4%	3.5%	2.4%
無回答	0.3%	0.7%	0.8%

問2 問1で③「あまり好きでない」④「嫌い」を選んだ人は、教えてください。それはなぜですか。
(複数回答可)

①文字を読むのが嫌い	—	28.3%	38.7%
②つまらない	—	8.6%	18.9%
③面倒くさい	—	8.2%	20.7%
④忙しい	—	7.7%	12.6%
⑤読みたい本が分からない	—	15.0%	23.4%
⑥他に好きなことがある	—	23.6%	13.5%
⑦その他	—	8.6%	4.5%
無回答	—	—	8.1%

問3 小さい頃に家の人に本を読んでもらったことがありますか。

①よく読んでもらった	47.1%	53.6%	55.0%
②時々読んでもらった	37.8%	32.1%	31.0%
③ほとんど読んでもらわなかった	14.4%	13.3%	12.3%
無回答	0.6%	1.0%	1.7%

問4 あなたは、1週間のうち何日、本を読みますか。

※朝読・図書の時間も含まれます。小説以外の科学の本なども入ります。教科書はのぞきます。

①0日	8.8%	5.3%	4.0%
②1日～2日	34.6%	24.5%	25.0%
③3日～4日	25.5%	23.2%	17.6%
④5日～6日	10.9%	15.2%	15.5%
⑤毎日	18.0%	30.3%	33.9%
無回答	2.2%	1.5%	4.0%

問5 この1か月の間に何冊本を読みましたか。

※朝読・図書の時間で読んだ本や読みかけの本も1冊に数えます。

①0冊	5.2%	3.2%	4.2%
②1冊～3冊	23.9%	14.2%	16.7%
③4冊～6冊	23.4%	17.0%	17.0%
④7冊～10冊	15.3%	16.4%	12.8%
⑤10冊より多い	30.4%	47.9%	42.7%
無回答	1.8%	1.2%	6.6%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問6 問5で①「0冊」を選んだ人は教えてください。本を読まなかったのはなぜですか。
(複数回答可)

①本が好きではない	23.0%	64.1%	29.3%
②勉強が忙しい	14.9%	66.7%	15.5%
③テレビやDVDを見る	12.2%	38.5%	17.2%
④インターネットやゲーム	29.7%	51.3%	37.9%
⑤友達と遊ぶ	32.4%	59.0%	22.4%
⑥読みたい本がない	40.5%	61.5%	17.2%
⑦その他	8.1%	1.0%	6.9%
無回答	4.1%	—	10.3%

問7 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(複数回答可)

①本屋などで買う	36.8%	40.5%	50.9%
②学校の図書室で借りる	52.2%	67.8%	65.5%
③友達から借りる	4.7%	8.9%	8.8%
④図書館や分室で借りる	47.3%	40.4%	33.0%
⑤家にある本を読む	62.8%	56.6%	52.7%
⑥インターネットで買う	4.6%	8.3%	7.4%
⑦その他	6.2%	10.4%	9.3%
無回答	1.5%	—	2.1%

問8 あなたは、読みたい本をどのようにして探しますか。(複数回答可)

①先生に聞く (学校の図書室の先生も含むのことばを令和元年度から入れた)	8.7%	19.2%	28.8%
学校図書館で探す(H26年度)	45.0%	—	—
②図書館の人に聞く	42.1%	25.5%	18.9%
③家の人に聞く	32.3%	43.8%	42.1%
④友達に聞く	12.1%	21.5%	24.3%
⑤インターネットで調べる	8.4%	11.4%	10.6%
⑥書店で探す	33.8%	31.5%	27.6%
⑦その他	9.8%	25.9%	18.1%
無回答	1.0%	—	1.9%

問9 あなたは、知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか。
(複数回答可)

①インターネットで調べる	10.0%	15.4%	14.7%
②学校の図書室で調べる	23.1%	30.8%	32.7%
③市の図書館で調べる	25.2%	24.3%	19.4%
④家の本で調べる	29.0%	33.4%	32.4%
⑤先生に聞く	25.0%	19.5%	23.5%
⑥家の人に聞く	55.8%	57.7%	49.3%
⑦友達に聞く	16.3%	21.7%	23.1%
⑧その他	8.8%	14.3%	11.7%
無回答	1.5%	—	1.9%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問10 あなたは、休み時間や放課後に、学校図書室に行きますか。
※図書の時間は、のぞきます。

①よく行く	8.6%	17.8%	18.1%
②たまに行く	43.3%	43.2%	43.7%
③ほとんど行かない	25.0%	18.4%	18.9%
④行かない	21.5%	19.0%	16.8%
無回答	1.5%	1.6%	2.4%

問11 問10で④「行かない」を選んだ人だけ、教えてください。学校図書室に行かないのはなぜですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	7.5%	14.8%	9.4%
②読みたい本がない	25.1%	30.9%	29.9%
③他の遊びをしたい	52.8%	69.6%	67.9%
④習い事や塾や部活や委員会がある	13.7%	13.0%	4.3%
⑤その他	20.5%	27.4%	15.8%
無回答	1.6%	—	2.6%

問12 あなたは、市の図書館へ行きますか。

①よく行く	28.9%	28.2%	25.0%
②たまに行く	36.5%	35.4%	33.7%
③ほとんど行かない	15.9%	15.2%	17.7%
④行かない	16.9%	18.8%	20.5%
無回答	1.8%	2.4%	3.0%

問13 問12で④「行かない」を選んだ人だけ教えてください。なぜ行かないのですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	7.9%	14.9%	9.8%
②図書館が遠い	39.4%	38.2%	42.8%
③本の借り方がわからない	11.2%	15.4%	9.1%
④家に本がある	32.0%	42.1%	27.0%
⑤友達に借りる	0.8%	1.8%	1.4%
⑥時間がない	28.6%	45.2%	37.9%
⑦その他	21.2%	41.2%	16.8%
無回答	2.1%	—	2.5%

問14 パソコンやスマホ、タブレットで、ものがたりやマンガなどを読んだことがありますか。

①よく読む	30.4%	15.9%	18.7%
②ときどき読む		22.6%	23.1%
③読まない	68.0%	59.5%	56.5%
無回答	1.6%	2.0%	1.7%

問15 問14で①「よく読む」②「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか。

①両方読む	—	67.2%	62.0%
②本(活字の本)は読まない	—	26.3%	28.6%
無回答	—	6.6%	9.5%

③小学校5年生

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問1 あなたは、本を読むのが好きですか。

①好き	46.0%	53.2%	51.1%
②まあまあ好き	34.9%	33.3%	32.4%
③あまり好きではない	13.3%	9.4%	13.8%
④嫌い	5.6%	3.7%	2.3%
無回答	0.2%	0.4%	0.5%

問2 問1で③「あまり好きでない」④「嫌い」を選んだ人は、教えてください。それはなぜですか。
(複数回答可)

①文字を読むのが嫌い	—	20.7%	43.8%
②つまらない	—	11.0%	21.0%
③面倒くさい	—	11.5%	26.5%
④忙しい	—	5.3%	15.1%
⑤読みたい本が分からない	—	11.5%	22.8%
⑥他に好きなことがある	—	28.2%	47.5%
⑦その他	—	11.9%	6.8%
無回答	—	—	0.5%

問3 小さい頃に家の人に本を読んでもらったことがありますか。

①よく読んでもらった	49.9%	53.1%	58.2%
②時々読んでもらった	38.1%	37.5%	32.8%
③ほとんど読んでもらわなかった	11.4%	8.2%	8.1%
無回答	0.6%	1.3%	1.0%

問4 あなたは、1週間のうち何日、本を読みますか。

※朝読・図書の時間も含まれます。小説以外の科学の本なども入ります。教科書はのぞきます。

①0日	9.0%	4.5%	5.1%
②1日～2日	37.6%	28.4%	29.6%
③3日～4日	26.0%	27.9%	24.9%
④5日～6日	12.0%	15.7%	19.1%
⑤毎日	14.6%	23.2%	20.5%
無回答	0.8%	0.3%	0.8%

問5 この1か月の間に何冊本を読みましたか。

※朝読・図書の時間で読んだ本や読みかけの本も1冊に数えます。

①0冊	5.5%	3.7%	4.8%
②1冊～3冊	28.3%	22.2%	24.8%
③4冊～6冊	29.7%	26.1%	25.9%
④7冊～10冊	14.0%	16.3%	15.8%
⑤10冊より多い	22.0%	31.5%	27.8%
無回答	0.6%	0.3%	0.9%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問6 問5で①「0冊」を選んだ人は教えてください。本を読まなかったのはなぜですか。
(複数回答可)

①本が好きではない	38.0%	59.6%	38.5%
②勉強が忙しい	15.2%	34.0%	18.5%
③テレビやDVDを見る	25.3%	34.0%	26.2%
④インターネットやゲーム	45.6%	29.8%	40.0%
⑤友達と遊ぶ	49.4%	46.8%	33.8%
⑥読みたい本がない	43.0%	42.6%	29.2%
⑦その他	26.6%	1.1%	20.0%
無回答	1.3%	—	0.0%

問7 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(複数回答可)

①本屋などで買う	60.0%	62.2%	62.9%
②学校の図書室で借りる	49.5%	68.5%	67.6%
③友達から借りる	15.5%	25.3%	14.4%
④図書館や分室で借りる	58.9%	53.2%	45.3%
⑤家にある本を読む	53.8%	45.6%	43.9%
⑥インターネットで買う	6.8%	10.1%	8.9%
⑦その他	7.7%	7.9%	5.7%
無回答	0.8%	—	0.8%

問8 あなたは、読みたい本をどのようにして探しますか。(複数回答可)

①先生に聞く (学校の図書室の先生も含むのことばを令和元年度から入れた)	2.1%	7.3%	18.9%
学校図書館で探す(H26年度)	37.8%	—	—
②図書館の人に聞く	54.7%	22.2%	17.8%
③家の人に聞く	21.4%	30.0%	28.3%
④友達に聞く	15.3%	27.3%	21.5%
⑤インターネットで調べる	18.1%	26.0%	22.0%
⑥書店で探す	52.7%	51.6%	44.7%
⑦その他	11.8%	25.7%	21.6%
無回答	0.8%	—	1.5%

問9 あなたは、知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか。
(複数回答可)

①インターネットで調べる	43.2%	59.1%	56.9%
②学校の図書室で調べる	15.9%	20.6%	17.8%
③市の図書館で調べる	27.0%	20.1%	13.8%
④家の本で調べる	24.1%	24.5%	21.0%
⑤先生に聞く	16.1%	18.8%	19.3%
⑥家の人に聞く	61.6%	62.9%	59.0%
⑦友達に聞く	21.5%	29.1%	28.5%
⑧その他	11.8%	11.0%	10.3%
無回答	0.6%	—	1.7%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問10 あなたは、休み時間や放課後に、学校図書室に行きますか。
※図書の時間は、のぞきます。

①よく行く	7.0%	13.9%	10.9%
②たまに行く	35.9%	39.7%	36.2%
③ほとんど行かない	30.3%	24.9%	25.5%
④行かない	26.5%	20.1%	26.5%
無回答	0.3%	1.5%	1.0%

問11 問10で④「行かない」を選んだ人だけ、教えてください。学校図書室に行かないのはなぜですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	12.1%	14.7%	9.4%
②読みたい本がない	28.7%	24.2%	18.6%
③他の遊びをしたい	44.7%	65.5%	62.3%
④習い事や塾や部活や委員会がある	30.3%	31.0%	31.0%
⑤その他	22.4%	23.0%	17.5%
無回答	1.1%	—	1.7%

問12 あなたは、市の図書館へ行きますか。

①よく行く	27.2%	24.5%	17.1%
②たまに行く	41.4%	39.1%	37.9%
③ほとんど行かない	18.9%	20.3%	22.8%
④行かない	12.0%	14.7%	20.8%
無回答	0.5%	1.3%	1.4%

問13 問12で④「行かない」を選んだ人だけ教えてください。なぜ行かないのですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	19.7%	15.7%	9.2%
②図書館が遠い	39.3%	37.8%	40.6%
③本の借り方がわからない	5.8%	8.1%	7.4%
④家に本がある	27.2%	22.7%	26.5%
⑤友達に借りる	4.0%	6.5%	4.2%
⑥時間がない	41.6%	53.5%	52.7%
⑦その他	30.1%	39.5%	29.7%
無回答	0.6%	—	0.4%

問14 パソコンやスマホ、タブレットで、ものがたりやマンガなどを読んだことがありますか。

①よく読む	37.6%	16.4%	18.0%
②ときどき読む		26.1%	25.2%
③読まない	61.9%	55.8%	55.9%
無回答	0.5%	1.7%	1.0%

問15 問14で①「よく読む」②「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか。

①両方読む	—	68.6%	67.3%
②本(活字の本)は読まない	—	28.6%	29.9%
無回答	—	2.8%	2.7%

④中学校2年生

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問1 あなたは、本を読むのが好きですか。

①好き	37.5%	41.6%	39.5%
②まあまあ好き	37.1%	32.1%	36.6%
③あまり好きではない	17.1%	16.8%	16.9%
④嫌い	8.3%	9.2%	6.8%
無回答	0.0%	0.2%	0.2%

問2 問1で③「あまり好きでない」④「嫌い」を選んだ人は、教えてください。それはなぜですか。
(複数回答可)

①文字を読むのが嫌い	—	15.7%	31.0%
②つまらない	—	17.2%	34.6%
③面倒くさい	—	21.5%	44.8%
④忙しい	—	6.1%	19.0%
⑤読みたい本が分からない	—	11.9%	22.2%
⑥他に好きなことがある	—	25.0%	47.7%
⑦その他	—	2.8%	7.5%
無回答	—	—	1.3%

問3 小さい頃に家の人に本を読んでもらったことがありますか。

①よく読んでもらった	37.0%	46.7%	48.3%
②時々読んでもらった	45.0%	40.0%	39.6%
③ほとんど読んでもらわなかった	17.3%	12.4%	11.4%
無回答	0.7%	0.8%	0.7%

問4 あなたは、1週間のうち何日、本を読みますか。

※朝読・図書の時間も含まれます。小説以外の科学の本なども入ります。教科書はのぞきます。

①0日	15.1%	10.2%	5.0%
②1日～2日	21.3%	11.7%	7.1%
③3日～4日	18.3%	11.2%	9.5%
④5日～6日	29.8%	40.9%	52.8%
⑤毎日	15.3%	25.2%	25.3%
無回答	0.1%	0.9%	0.3%

問5 この1か月の間に何冊本を読みましたか。

※朝読・図書の時間で読んだ本や読みかけの本も1冊に数えます。

①0冊	13.7%	10.5%	6.1%
②1冊～3冊	57.0%	58.6%	65.5%
③4冊～6冊	16.1%	16.0%	16.1%
④7冊～10冊	5.5%	4.3%	5.0%
⑤10冊より多い	7.5%	10.2%	7.2%
無回答	0.2%	0.4%	0.2%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問6 問5で①「0冊」を選んだ人は教えてください。本を読まなかったのはなぜですか。
(複数回答可)

①本が好きではない	47.6%	56.3%	53.2%
②勉強が忙しい	14.8%	11.6%	17.7%
③テレビやDVDを見る	29.1%	31.3%	35.4%
④インターネットやゲーム	24.9%	41.1%	40.5%
⑤友達と遊ぶ	28.6%	26.8%	35.4%
⑥読みたい本がない	41.8%	42.0%	36.7%
⑦その他	16.4%	1.1%	15.2%
無回答	0.5%	—	0.0%

問7 あなたは、読みたい本をどのようにして手に入れますか。(複数回答可)

①本屋などで買う	76.0%	78.3%	80.8%
②学校の図書室で借りる	17.1%	28.9%	22.4%
③友達から借りる	30.2%	25.7%	19.2%
④図書館や分室で借りる	31.3%	28.0%	27.9%
⑤家にある本を読む	49.9%	35.4%	40.9%
⑥インターネットで買う	9.1%	11.3%	14.7%
⑦その他	7.2%	8.3%	6.0%
無回答	2.4%	—	0.5%

問8 あなたは、読みたい本をどのようにして探しますか。(複数回答可)

①先生に聞く (学校の図書室の先生も含むのことばを令和元年度から入れた)	0.8%	1.8%	3.3%
学校図書館で探す(H26年度)	12.3%	—	—
②図書館の人に聞く	25.8%	7.6%	5.9%
③家の人に聞く	13.6%	13.3%	17.5%
④友達に聞く	25.9%	23.4%	22.7%
⑤インターネットで調べる	25.6%	43.0%	41.2%
⑥書店で探す	73.6%	61.5%	64.1%
⑦その他	13.1%	19.5%	15.2%
無回答	2.4%	—	1.6%

問9 あなたは、知りたいことや分からないことがあったとき、どのようにして調べますか。
(複数回答可)

①インターネットで調べる	72.8%	87.8%	87.6%
②学校の図書室で調べる	4.2%	4.0%	3.3%
③市の図書館で調べる	11.6%	7.1%	5.5%
④家の本で調べる	16.7%	12.0%	14.5%
⑤先生に聞く	11.2%	18.5%	21.7%
⑥家の人に聞く	46.1%	49.2%	52.1%
⑦友達に聞く	34.4%	41.4%	41.7%
⑧その他	9.9%	7.3%	6.0%
無回答	1.0%	—	1.4%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問10 あなたは、休み時間や放課後に、学校図書室に行きますか。
※図書の時間は、のぞきます。

①よく行く	5.6%	11.1%	4.7%
②たまに行く	15.1%	24.1%	15.1%
③ほとんど行かない	18.7%	19.5%	21.7%
④行かない	60.2%	44.3%	57.6%
無回答	0.4%	1.0%	1.0%

問11 問10で④「行かない」を選んだ人だけ、教えてください。学校図書室に行かないのはなぜですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	13.6%	17.2%	11.2%
②読みたい本がない	32.3%	29.5%	26.5%
③他の遊びをしたい	42.8%	53.1%	61.3%
④習い事や塾や部活や委員会がある	38.7%	32.1%	28.0%
⑤その他	19.5%	27.4%	19.4%
無回答	0.4%	—	0.1%

問12 あなたは、市の図書館へ行きますか。

①よく行く	8.5%	6.7%	6.1%
②たまに行く	27.8%	23.5%	24.3%
③ほとんど行かない	29.7%	30.7%	34.8%
④行かない	33.5%	38.3%	33.7%
無回答	1.3%	0.8%	1.1%

問13 問12で④「行かない」を選んだ人だけ教えてください。なぜ行かないのですか。(複数回答可)

①本を読みたくない	23.8%	23.3%	20.9%
②図書館が遠い	31.1%	33.2%	32.4%
③本の借り方がわからない	2.2%	2.5%	3.0%
④家に本がある	26.1%	25.8%	32.0%
⑤友達に借りる	13.6%	10.6%	6.0%
⑥時間がない	48.4%	57.2%	57.5%
⑦その他	26.3%	37.1%	23.9%
無回答	0.9%	—	0.0%

問14 パソコンやスマホ、タブレットで、ものがたりやマンガなどを読んだことがありますか。

①よく読む	52.0%	28.0%	26.5%
②ときどき読む		29.6%	36.1%
③読まない	47.6%	41.4%	36.4%
無回答	0.4%	0.9%	1.0%

問15 問14で①「よく読む」②「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか。

①両方読む	—	67.7%	63.3%
②本(活字の本)は読まない	—	30.7%	34.9%
無回答	—	1.6%	1.7%

(2) 4歳児の保護者全体

	26年度	29年度	令和元年度
問1 子どもが本を読むことや本に興味をもつことは、子供の成長に必要なことだと思われませんか。			
①必要である	98.4%	97.6%	96.9%
②どちらとも言えない	1.6%	2.4%	3.1%
③必要でない	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%
問2 あなたは本を読むのが好きですか。			
①好き	54.4%	38.4%	41.0%
②まあまあ好き	37.6%	41.6%	40.3%
③あまり好きではない	7.2%	18.4%	17.6%
④嫌い	0.8%	1.6%	1.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%
問3 子どもの頃に、家の人に本を読んでもらったことがありますか。			
①よく読んでもらった	26.8%	30.4%	32.8%
②時々読んでもらった	47.6%	41.3%	42.7%
③ほとんど読んでもらわなかった	24.5%	27.8%	22.9%
無回答	1.1%	0.4%	1.5%
問4 子どもに1週間のうち、何日、本を読んであげますか。			
①0日	9.7%	4.7%	3.3%
②1日～2日	44.2%	39.6%	36.6%
③3日～4日	22.7%	24.2%	29.7%
④5日～6日	11.1%	13.6%	13.2%
⑤毎日	12.1%	17.8%	17.2%
無回答	0.2%	0.2%	0.0%
問5 子どもに最近1か月で何冊本を読んであげましたか。			
①0冊	3.9%	2.2%	0.7%
②1冊～3冊	25.9%	12.2%	14.3%
③4冊～6冊	23.0%	27.1%	24.9%
④7冊～10冊	17.7%	19.1%	17.4%
⑤11冊以上	29.2%	39.3%	42.7%
無回答	0.3%	0.0%	0.0%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問6 問5で①「0冊」を選んだ人だけ、その理由を教えてください。(複数回答可)

①本が好きではないから	4.0%	30.0%	33.3%
②仕事が忙しいから	28.0%	50.0%	66.7%
③家事が忙しいから	24.0%	70.0%	100.0%
④テレビやDVDを見たいから	20.0%	0.0%	0.0%
⑤インターネットやゲーム	8.0%	20.0%	0.0%
⑥読んであげたい本がない	0.0%	0.0%	0.0%
⑦その他	36.0%	50.0%	33.3%
無回答		—	0.0%

問7 あなたの子どもは、本を読んでもらうことが好きですか。

①好き	72.9%	79.6%	80.0%
②まあまあ好き	23.7%	18.2%	18.9%
③あまり好きではない	3.3%	2.2%	0.7%
④嫌い	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.2%	0.0%	0.4%

問8 子どもの本をどのようにして用意しますか。(複数回答可)

①本屋で買う	54.1%	51.6%	55.5%
②インターネットで買う	9.4%	11.3%	13.2%
③保育所・幼稚園で借りる	76.0%	86.7%	86.1%
④友達から借りる	0.6%	0.4%	0.4%
⑤市の図書館で借りる	64.3%	59.6%	51.3%
⑥家にある本を読む	61.3%	65.6%	67.6%
⑦その他	6.0%	8.2%	5.7%
無回答	0.5%	—	0.4%

問9 子どもの本をどのようにして選びますか。(複数回答可)

①子どもが読んでほしいといった本を選ぶ	86.7%	88.2%	88.3%
②子供の喜びそうな本を選ぶ	70.8%	75.8%	72.7%
③友達にすすめられた本を選ぶ	6.3%	5.8%	6.8%
④保育所・幼稚園の先生に相談して選ぶ	0.6%	0.9%	0.4%
⑤図書館等のブックリストを参考に選ぶ	11.4%	14.4%	11.5%
⑥図書館司書に相談して選ぶ	0.3%	0.2%	0.2%
⑦その他	10.2%	11.1%	10.1%
無回答	0.5%	—	0.7%

26年度	29年度	令和元年度
------	------	-------

問10 子どもをつれて市立の図書館へ行きますか。

①よく行く	26.2%	22.0%	23.6%
②たまに行く	38.6%	40.4%	32.2%
③ほとんど行かない	16.8%	15.8%	20.3%
④行かない	18.5%	21.8%	23.6%
無回答		0.0%	0.4%

問11 問10で④「行かない」と選んだ人だけ、その理由を教えてください。(複数回答可)

①本を読みたくない	0.0%	4.1%	1.9%
②図書館が遠い	34.7%	37.8%	18.7%
③本の借り方がわからない	6.8%	4.1%	3.7%
④家に本がある	27.1%	32.7%	27.1%
⑤友だちに借りる	0.0%	1.0%	0.0%
⑥時間がない	44.1%	41.8%	36.4%
⑦その他	24.6%	36.7%	44.9%
無回答	0.8%	—	0.0%

問12 子ども健康センターで乳児の4か月児健診時に絵本を手渡す「ブックスタート」を知っていますか。

①知っている	81.8%	—	—
②知らない	18.2%	—	—

子どもと本の出会いを支える 学校と公共図書館ねっとわーくプラン

子どもたちが、発達段階に応じて自ら本に出会い、本の面白さや楽しさに気づき、健やかな成長の糧となるよう、子どもたちが多くの時間を過ごす学校、そして地域としての公共図書館が協力しあい、子どもの読書活動を推進します。

「第2次茨木市子ども読書活動推進計画」をもとに、以下の取り組みを具体的にすすめます。
(※以下「公共図書館」を「図書館」と表記します。)

プランを支える4つの柱

具体的な協力体制について、4つの柱に分類しました。

“資料”の共有、“施設”“活動”の充実、“人”の交流により子どもたちの読書活動を支えます。

① 図書館の本を借りる

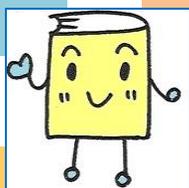
子どもたちにより多くの本に触れてもらうため、市内の学校に図書館の本を貸し出します。

- 団体貸出(長期貸出)
調べ学習に関する資料の相談と協力
- 団体貸出(短期貸出)

② 学校図書館の環境をさらに充実させる

環境の充実に関わる蔵書構成等について、図書館司書がともに考えます。

- 本の選書・蔵書構成
- 除籍
- 修理 など



とよかんたろう

③ 子ども読書担当者 がつながる

担当者同士が、課題・情報の共有、情報交換を行います。

- 司書教諭・学校図書館支援員・ボランティア・図書館司書の情報交換
- 学校図書館支援員研修への協力

④ 図書館で学ぶ

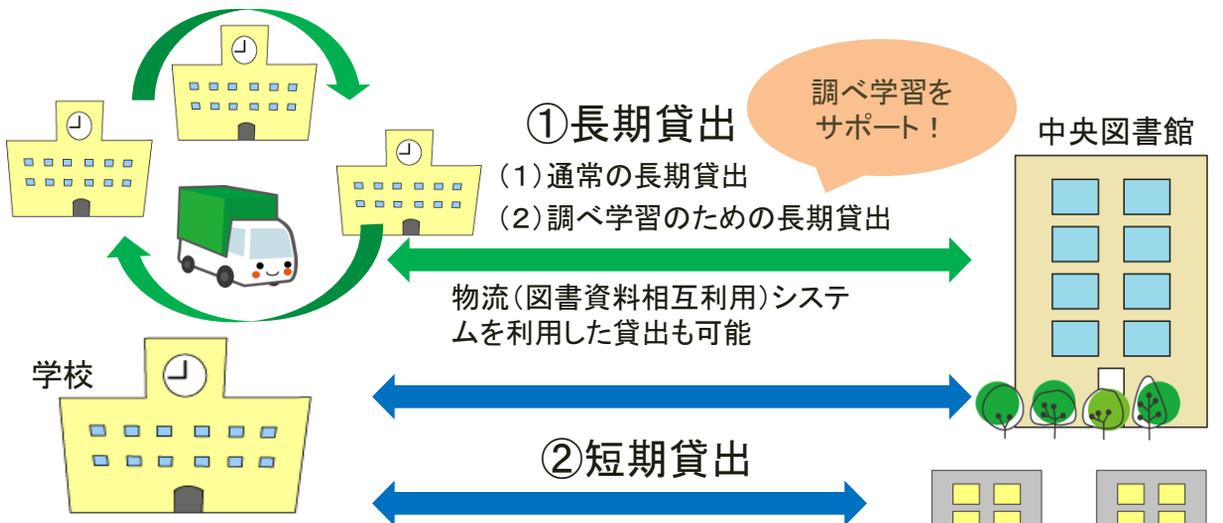
子どもたちの学びの場として、図書館を活用いただけます。

- 図書館見学(小学3年生)
- 職場体験(中学2年生)

①図書館の本を借りる

子どもたちがより多くの本に出会うことができるよう、図書館の児童書・絵本・紙芝居などを、市内の学校に貸出しています。

『長期貸出』及び『短期貸出』を利用していただけます。



①長期貸出

(1)通常の長期貸出

対象館：中央図書館の書庫にある図書

貸出冊数：最大300冊

貸出期間：最長3か月

利用方法：来館しての貸出。来館希望日時をお電話で事前予約ください。

★来館可能日時：水から金曜日までのいずれか
9:30~11:30、13:00~16:00

★貸出資料は、直接持ち帰るか「物流システム」の利用もできます。

(2)調べ学習のための長期貸出

対象館：中央図書館の書庫にある図書(原則1タイトル1冊)

貸出冊数：最大50冊(テーマで貸出希望の場合は20冊まで)

※冊数は「通常の長期貸出」の冊数に含みます。

貸出期間：おおむね2か月

利用方法：ファックスでの申込。依頼票(図書館HPでダウンロードできます)を中央図書館まで送付ください。

★「借りる資料が決まっている場合」「具体的な書名が決まっておらずテーマや主題にあわせた図書の送付を希望する場合」の2つの利用方法があります。

★「物流システム」を利用した貸出も可能です(直接持ち帰りもできます)。

※詳しくは「茨木市図書館HP」⇒「学校支援のページ」⇒「物流を利用した図書の貸出について」をご覧ください。

②短期貸出

対象館：中央図書館・分館(中条・水尾・庄栄・穂積図書館)の閲覧室にある図書

貸出冊数：最大20冊 貸出期間：最長1か月 利用方法：事前予約は不要です。

★開館時間内であればご利用いただけます。★貸出資料は、直接お持ち帰りください。

※詳しくは「茨木市図書館HP」⇒「学校支援のページ」⇒「団体貸出のご案内」をご覧ください。

分館4館

(中条・水尾・庄栄・穂積)

物流システムって?

年に15回学校間と中央図書館を起点・終点に運搬している「図書資料相互利用」のシステムです。
(担当:学校教育推進課)



②学校図書館の環境をさらに充実させる

学校図書館を日々運営される中で、お困りのことはありませんか？
学校図書館の魅力をアップ！し、子どもたちにたくさん使ってもらえるように、
図書館の司書がともに考え、取り組みます。



選書・蔵書構成

購入する資料について、選書基準や、
蔵書構成の考え方など、図書館司書
が相談にのります。

除籍

購入・受入をする一方で、除籍につ
いて考えることも書架の鮮度を保つた
めに、とても大切な仕事です。
どのような基準で除籍していくのか、
また不要になった本の活用方法につ
いて、図書館司書がご提案します。

配架方法

子どもたちにわかりやすく、手にと
ってもらいやすい資料の並べ方、展示方
法等について、ともに考えます。

修理

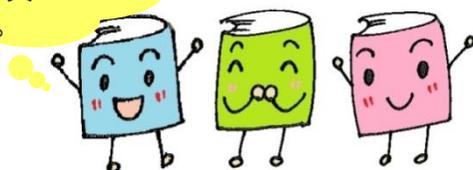
日ごろの運営の中で、修理方法に迷
うとき、図書館へお問い合わせくださ
い。

その他

そのほかにもご相談をおうかがいま
す。



子どもたちが、自ら本を
手に取ってくれる工夫
をともに考えよう。



③子ども読書担当者がつながる

学校図書館に関わる司書教諭・学校図書館支援員・ボランティアと、図書館の司書が日ごろの運営・活動について情報交換をします。また、学校図書館支援員研修について、図書館司書が協力します。

○司書教諭・学校図書館支援員・ボランティア・司書の情報交換

学校図書館の様子、取り組み、課題などを教えてください。

また、担当者同士顔が見える関係を築くことで、日ごろから困っていることや工夫していることなどの情報交換を行い、子ども読書推進に向けた取り組みをスムーズに進めます。



授業の調べ学習で、こんなテーマをよくとりあげるのですが、図書館ではどんな資料がありますか？

それでしたらこんな資料がありますよ。またほかにも〇〇についての資料はたくさんそろえていますよ。



いいですよ。学校図書館にチラシを設置できます。こちらの取り組みの情報も、図書館へお知らせしますね。

図書館で子どもたちに向けてイベントをやります。チラシを配布してもらえますか？



○学校図書館支援員研修

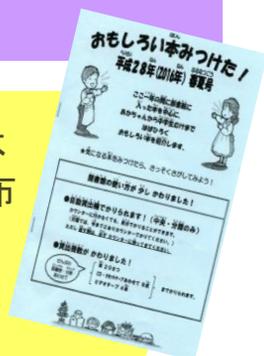
学校教育推進課が実施している研修等で、図書館司書が、本の修理方法などの実習を行ったり、図書館での読書活動の推進状況などをお伝えすることができます。

そのほかにも…

学校でのおはなし会 実施への協力

おはなし会ボランティアを派遣します。
※詳しくは、「茨木市図書館HP」⇒「学校支援のページ」⇒「おはなし会ボランティアの派遣」をご覧ください。

ブックリスト「おもしろい本
みつけた！」の発行・配布
司書が子どもたちに届けた
い本を選んで、年2回発行し
ています。学年ごとに作成
し、配布しています。



④図書館で学ぶ

図書館では、見学、職場体験の受入を行っています。

日頃図書館に来たことのない子どもたちにも足を運んでもらう機会として、学校の授業でぜひお越しください。

図書館見学

小学3年生

図書館の役割や利用方法についてのお話、館内の見学を行います。中央図書館では、普段入ることのできない地下の書庫なども見ていただけます。

<申込方法>

★見学を希望する図書館(中央または分館4館)に電話で連絡。候補日を3日程お知らせください。

★見学できる日時は…

曜日:水から金曜日

時間:午前9時30分から

※クラス数が多い場合は、2日に分けて受付する場合があります。

<見学のプログラム例>

9:30 あいさつ・お手洗い等

9:40 図書館紹介DVD視聴

10:00 館内見学

(人数が多い場合は2回に分けます)

10:30 児童室で閲覧、貸出

11:00 質問コーナー

11:10~11:30 終了

事前に質問内容についてお知らせいただくと、詳しく説明ができます。

また、利用カードの作成には1週間かかるので、必要な枚数をなるべく早く教えてくださいね。



職場体験

中学2年生

カウンターでの仕事や、普段見ることのできない裏方の仕事なども体験していただけます。

<申込方法>

★体験を希望する図書館(中央または分館4館)に電話で連絡。

★体験できる日は…

曜日:水から金曜日

時間:午前8時45分から午後4時

★提出書類

依頼文書(学校の様式で結構です)



ここをクリック!

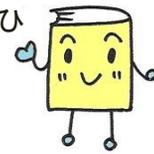
茨木市立図書館のHPでは、「中学生のおすすめ本」として、職場体験に参加された生徒さんの本の紹介文を掲載しています。ぜひ一度ごらんください。

※紹介文原稿作成は、職場体験者全員にお願いしています。

※詳しくは、「茨木市図書館HP」⇒「学校支援のページ」⇒「図書館見学のご案内」「職場体験」をご覧ください。

茨木市図書館ホームページの「学校支援のページ」「こどものページ」をぜひ一度ご覧ください。

<http://www.lib.ibaraki.osaka.jp/>



地域の図書館のわたしたちが、学校図書館のみなさんとともに取り組みます。
これからもどうぞよろしくお願ひします。



中条図書館
東中条町2番13号
電話：072-622-2476



水尾図書館
水尾三丁目3番18号
電話：072-637-4416



中央図書館
畑田町1番51号
電話：072-627-4129



庄栄図書館
庄二丁目26番12号
電話：072-620-1171



穂積図書館
松ヶ本町8番30号
(イオンモール茨木内)
電話：072-620-1056

図書館担当ブロック

市内の小・中学校をブロック別に分け、各図書館が担当します。
学校図書館からのご相談などは、担当図書館へ！

中央図書館

中学校（5）西・豊川・北・北陵・彩都西
小学校（12）春日・郡・畑田・豊川・郡山・耳原・福井・
安威・山手台・忍頂寺・彩都西・清溪



庄栄図書館

中学校（3）三島・太田・東雲
小学校（6）三島・庄栄・太田・
西河原・東・白川

穂積図書館

中学校（2）
天王・西陵
小学校（5）
天王・西・春日丘・
穂積・沢池

中条図書館

中学校（2）養精・東
小学校（5）茨木・中条・
中津・大池・
東奈良

水尾図書館

中学校（2）南・平田
小学校（4）水尾・葦原・玉櫛・玉島

地域の特性や、各学校の特色を生かした
連携をめざします。



茨木市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づき、（仮称）第3次茨木市子ども読書活動推進計画（第2において「推進計画」という。）を策定するに当たり、茨木市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 推進計画の策定に関すること。
- (2) 推進計画の実施に向けた総合的な調整に関すること。
- (3) その他推進計画の策定について必要な事項

(組織)

第3 委員会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

(委員長等)

第4 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は教育委員会教育総務部長の職にある者を、副委員長は同学校教育部長の職にある者をもって充てる。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6 委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第7 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成26年5月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から実施する。

別表

こども育成部長 教育委員会教育総務部長 同学校教育部長 文化振興課長 人権・男女共生課長 保健医療課長 こども政策課長 子育て支援課長 保育幼稚園総務課長 学童保育課長 教育委員会社会教育振興課長 同中央図書館長 同学校教育推進課長 同教育センター所長
--

子どもの読書活動の推進に関する法律

公布：平成13年12月12日法律第154号

施行：平成13年12月12日

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

第3次茨木市子ども読書活動推進計画

令和2年（2020年）3月

発行 茨木市

編集 茨木市教育委員会 教育総務部 中央図書館

〒567-0028 茨木市畑田町1-51

TEL 072-627-4129

FAX 072-627-7936

URL <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kurashi/toshokan/index.html>
